

まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版ver.1.0）

---

## 活用の手引き

# 目次

## ■ 目次

<b>1章 はじめに</b>	<b>P2</b>
1. 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかとは	P3
2. 「まちなかの居心地の良さを測る指標」の作成目的	P5
<b>2章 本指標の解説</b>	<b>P7</b>
1. 基本的な考え方	P8
2. 居心地の良さを構成する4要素	P10
【コラム】居心地の良さを構成する4要素の抽出	P12
3. 本指標の構成	P13
4. 本指標の活用方法	P15
<b>3章 調査要領</b>	<b>P17</b>
1. 本指標の実施ステップ	P18
2. 対象地・実施時期について	P19
3. 現地計測方法の解説	P21
4. 分析ツールの利用方法の解説	P31
5. 結果の分析に関する考え方	P41
<b>参考資料</b>	<b>P49</b>
1. 計測イメージ	P50
2. まちの状態の可視化に関連した文献・ツール等	P57

# 1章 はじめに

---

# 1. 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかとは

## (1) 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成の背景

誰もが容易にアクセスできる街路・公園・民間空地等の官民のパブリックな空間を、単一目的・単一用途の使い方の空間から、居心地が良く多様な人々の多様な使い方が共存できる「居心地が良く歩きたくなる」人間中心の空間とすることで、周辺地域への高い波及効果が期待されます。

そのような人間中心の空間における多くの人材の出会いと交流により、地域の消費と投資、雇用を生み出し、豊かで成熟した生活を実現する「都市空間」へと再生していくことが狙いです。

人が集い、滞在し、周辺への波及効果も高い公共空間は、まちなか再生に向けた触媒、先導役となる可能性を持っています。



# 1. 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかとは

## (2) 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの構成要素

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりには、歩きやすい空間づくりのみならず、まちの1階部分において人々の興味を引く、楽しい環境とすることで、人々が思い思いの多様な活動ができる空間の形成、誰にも開かれ、滞在したくなるような空間づくりが必要です。

以下に記載した、「Walkable」、「Eye level」、「Diversity」、「Open」が、ウォーカブル空間形成のための重要なポイントとなります。

### 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかのイメージ

#### Walkable 歩きたくなる

居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

#### Eye level まちに開かれた1階

歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで中が見えると、人は歩いて楽しくなる。

#### Diversity 多様な人の多様な用途、使い方

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

#### Open 開かれた空間が心地良い

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。



## 2. 「まちなかの居心地の良さを測る指標」の作成目的

### (1) 指標作成に至った背景

少子高齢化、デジタル化、グローバル化、ニューノーマルな生活様式の浸透等、急速な社会変容を踏まえた都市のあり方を検討するため、国土交通省では下記の懇談会・検討会を開催し、その中で、**今後のまちづくりの構成要素としてアクティビティに着目することの重要性**や**QoL向上の度合いを可視化することの重要性**が議論されました。

#### ■ 本指標作成のきっかけとなった主な会議体

##### 都市の多様性とイノベーションの創出に関する 懇談会（平成31年2月～令和元年6月）

#### ● 懇談会の概要

女性の活躍やスタートアップの拡大など都市経済・社会の「多様性」の促進や、これら多様性の集積・交流を通じた「イノベーション」の創出など、付加価値を創出する「都市」のあり方について検討することを目的に開催しました。

#### ● 検討された内容

中間とりまとめ報告書の中の、今後のまちづくりの方向性と「10の構成要素」という項目では、「量に加え、交流・滞在などの活動の質も重視する」との記載があり、**今後のまちづくりの構成要素としてアクティビティに着目することの重要性が議論されました**。他にも、多様性の共存やプラットフォーム等が構成要素として掲げられ、それらが居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成に繋がっているとされています。

参考：都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会中間とりまとめ報告書（概要）  
<https://www.mlit.go.jp/common/001301649.pdf>

##### デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した 都市政策のあり方検討会（令和2年10月～令和3年4月）

#### ● 懇談会の概要

最近の都市政策の動向等を踏まえ、社会的変化に対応しつつ、都市アセットの利活用を通じた市民のQoL（Quality of Life）の大幅な向上を図るため、今後目指すべきまちづくりの方向性はどのように変化していくのか、これを実現するための都市政策をどのように変革していくべきかについて検討することを目的に上記検討会を開催しました。

#### ● 検討された内容

中間とりまとめ報告書の中のまちづくりを評価する指標のあり方では、「実際のまちづくりが市民のニーズに真に応えているかを検証するためには～**都市アセットを利活用して行われている活動の内容**や都市の利便性に着目し、市民のQoL向上の度合いを可視化する評価指標を設定することが重要である。」との記載があり、**ニューノーマルな時代にむけたまちづくりの評価指標としてQoL向上の度合いを可視化することの重要性が議論されました**。

参考：デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会中間とりまとめ報告書<https://www.mlit.go.jp/toshi/machi/content/001398793.pdf>

また、巻末参考資料にも付記した通り、国内外の研究・実践からも、滞在者のアクティビティに着目し都市を評価したり、空間づくりを行う手法が確立しています。

特に、泉山壘威らの「人間中心視点による公共空間のアクティビティ評価手法に関する研究」は、滞在者の行動観察から、「歩行者交通量が増えても利用者は必ずしも増えるわけではない」ことを立証し、会話・休憩・飲食といった**活動（アクティビティ）が滞在者の滞在時間を延ばし、単位時間当たりの滞在者数を増やす**ことを明らかにしています。また、交通量調査、滞在者アンケート調査という従来型の調査手法に加え、滞在者の活動を観察を行う「アクティビティ評価」を行うことで、質的かつ客観的なデータ収集を可能都市、より精緻な都市の評価を実施できると述べています。

また、LIFULL HOME'S総研の「Sensuous City [官能都市]」では、「都市における官能的な体験の実態をつかむ」ことを目的に関係性と身体性という視点から都市の実相を可視化する調査を行っている等、まちなかで行う「活動」が着目されています。

## 2. 「まちなかの居心地の良さを測る指標」の作成目的

1章 はじめに

### (2) 作成目的

- これまで、都市空間の状態を把握する際、「**滞在者・通行者の量**」や、インフラ施設の整備状況や構造物/工作物の設置状況といった「**ハード環境**」より、その状態を定量的に把握する手法が一般的でした。
- 日本の都市が成熟期に入り、「新たに作る」だけでなく「場を活用」するまちづくりが重要視され、都市は市民生活の最低限の機能を満たすものから、市民一人ひとりが輝ける舞台として、市民のQoL向上を下支えするものとなっていく必要があります。
- そのため、施設の整備状況や交通量、滞在者・通行者数といった「量」の把握に加え、都市がどのように利用され、どのような活動が行われているかといった「質」に着目することが重要です。本指標（改訂版）（以下「本指標」という）は「**都市空間の質を可視化する指標**」として、令和元年度に公表した指標をベースに、実際に活用した方々の声を参考にしながら作成しました。
- 本指標では「都市空間の質」について、「**居心地が良く歩きたくなるまちなか**」を目指し、空間の状態に加え、滞在者がどのように感じ（主観）、どのように利用しているか（活動）を把握することで、これまで捉えることが難しかった「まちなかの居心地の良さ」を可視化しています。

参照：2章1.(P8-9)



出所：「姫路市ウォークアブル推進計画」



出所：「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」



出所：「居心地が良く歩きたくなるグランドレベルデザイン」

- 本指標をKPIとして高頻度でPDCAを回すことで、**本質的に居心地が良く、使われるまちなかになる**ことが期待されます。また、本指標により、まちづくりの取組から得られた効果をこれまでよりもわかりやすく多角的に可視化することで、ステークホルダーとの**コミュニケーションが充実し**、活動意義と継続の必要性の共感の輪を広げることができます。

参照：2章4.(P15-16)

**本指標を用いて「まちなかの居心地の良さ」を様々な観点から計測し、皆さんの空間を見直してみませんか？**

ぜひ多くのエリアで活用いただき、皆様の感想の声をもとに、よりよい指標に育てていきたいと考えています。

## 2章 本指標の解説

---



# 1. 基本的な考え方

## (1) 人間の視点により場の状態を把握することの必要性

社会資本整備が一定程度完了したまちなかにおいて「つくること」から「つかうこと」に着眼し、量から質への転換が求められています。

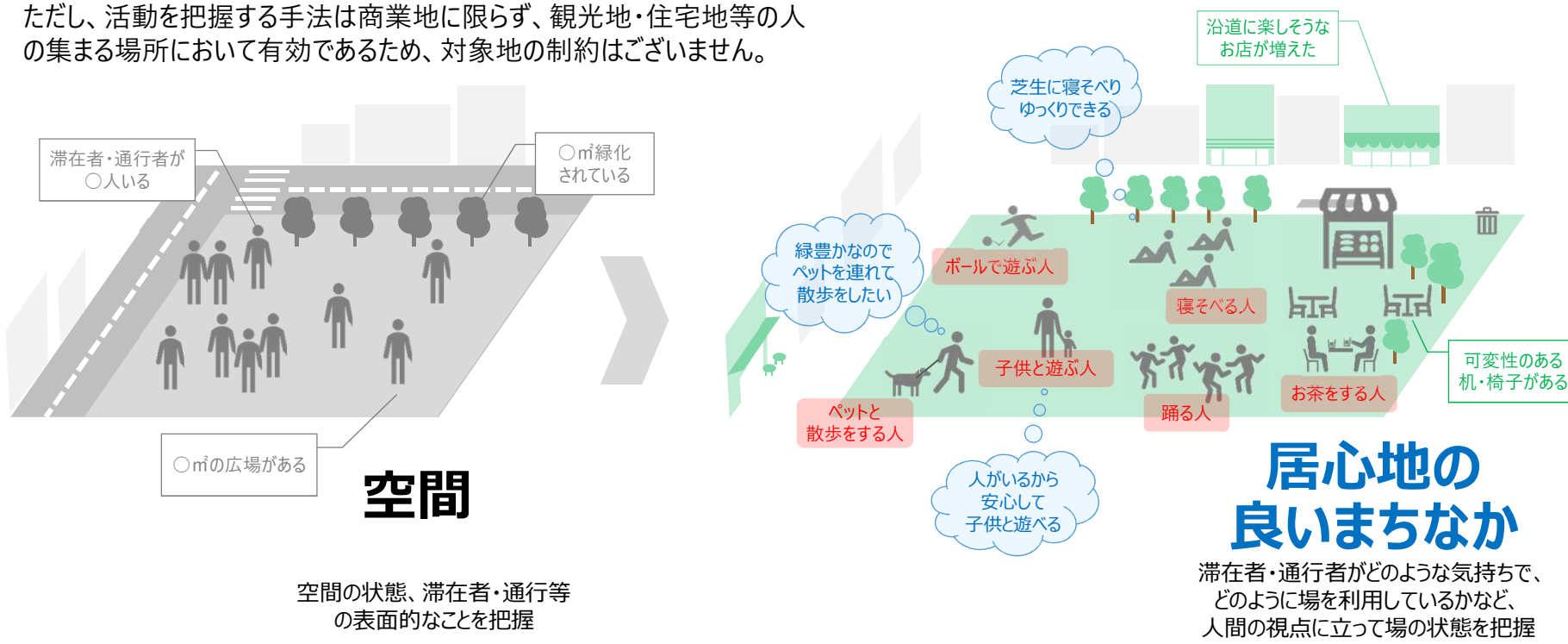
そのためにはより人間らしい視点から場づくりを行うことで、単なる空間（スペース）から滞在者・通行者にとって居心地の良いまちなか（プレイス）へ場を育てるという発想が大切です。

そのため、まちなかの居心地の良さを把握する際には、滞在者・通行者がどのような気持ちで、どのように場を利用しているか、人間の視点に立って場の状態を把握することが重要です。

### ■ 対象地

本指標は「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を支援するものとして、多様な人々の出会い・交流拠点である各都市のまちなかで活用されることを想定し作成しています。

ただし、活動を把握する手法は商業地に限らず、観光地・住宅地等の人の集まる場所において有効であるため、対象地の制約はございません。



# 1. 基本的な考え方

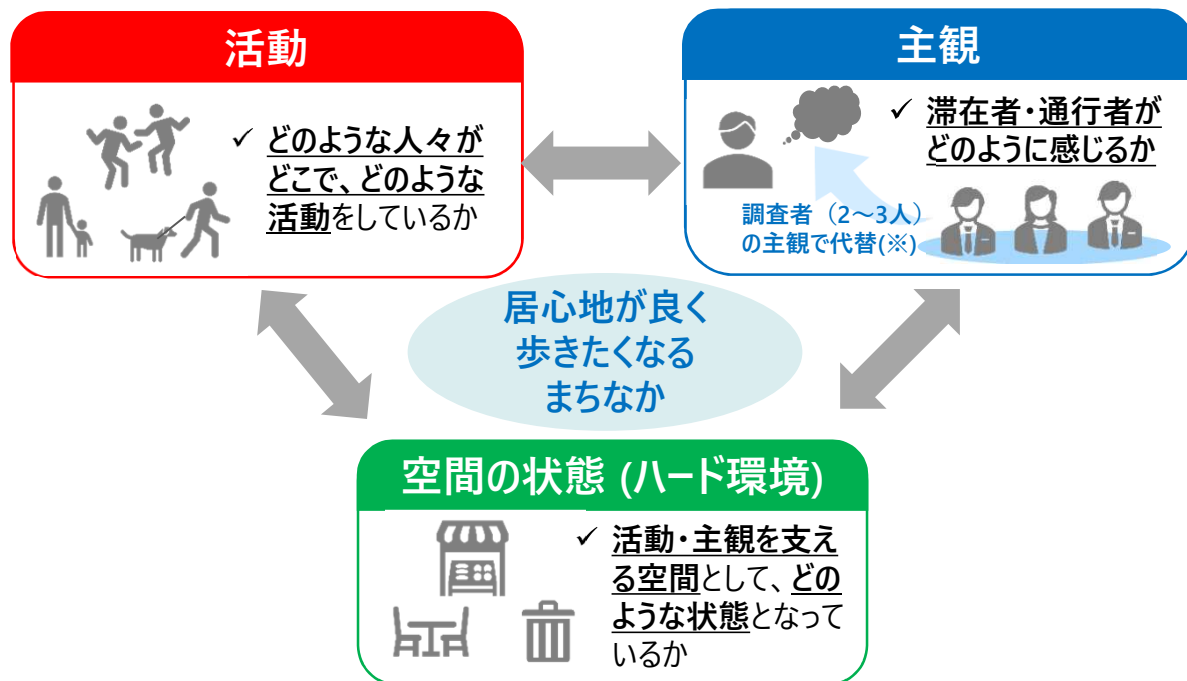
## (2) 主観と活動、空間の状態の関係性

これまで多くのまちなかの調査では、ハードが整備されているか（ハード整備状況）、どのくらいの人がいるか（滞在者・通行者数）により、まちなかの状態を把握していましたが、建物や土地、設え等のハード環境（空間の状態）に加え、滞在者・通行者がどのように感じ（主観）、どのように場を利用しているか（活動）を確認することで、居心地の良い空間が形成されているかどうかを、より人間らしい視点から把握します。

本指標はプレイスメイキング\*の基本的な考え方を参考に、かつ滞在者・通行者にとっての居心地の良さや場の使いやすさを鑑み、「活動・主観・空間の状態」からまちなかの状態を把握することとしました。

\*：プレイスメイキングとは、まちなかに居心地の良い「居場所」となる場所を増やすことで、そのまちに暮らす人々生活の質を高める手法

### ■ 人間視点のまちなかの状態把握項目



### ■ これまでのまちなかの状態把握項目



### ※滞在者・通行者の主観を代替することについて

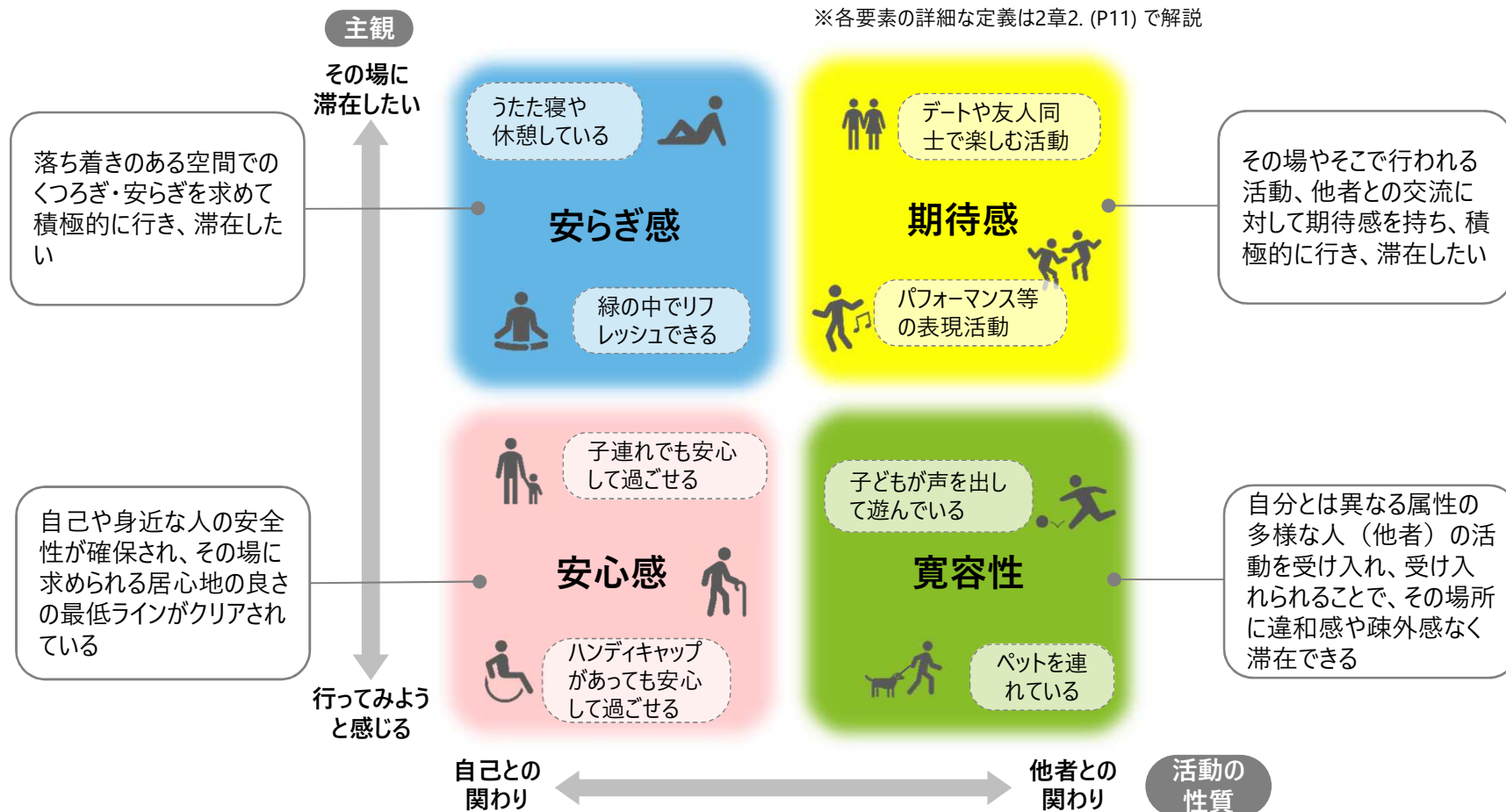
- 本指標では測定を簡便にするため、「調査者」の主観を計測しています。
- 「調査者」の主観が、滞在者・通行者の一般的な主観として代替できるよう、「調査者」は属性に偏りが無い2~3人（最大6人）で計測し、その平均値をとることにしています。
- より滞在者・通行者の実態を把握したい場合は、アンケートを実施することも考えられます。

## 2. 居心地の良さを構成する4要素

### (1) 居心地の良さを構成する4要素の位置付け

居心地の良い空間に求められる要素は、その場に滞在する人の感情やその場で行われる活動の性質により、様々なものがあります。本指標では、本指標の利用者のわかりやすさも踏まえ、人が場に対して持つ感情をもとに、居心地の良さを**安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の4つにグルーピング**し、対象地を各要素ごとに把握します。

#### ■ 居心地の良さを構成する4要素



## 2. 居心地の良さを構成する4要素

### (2) 居心地の良さの4要素の定義

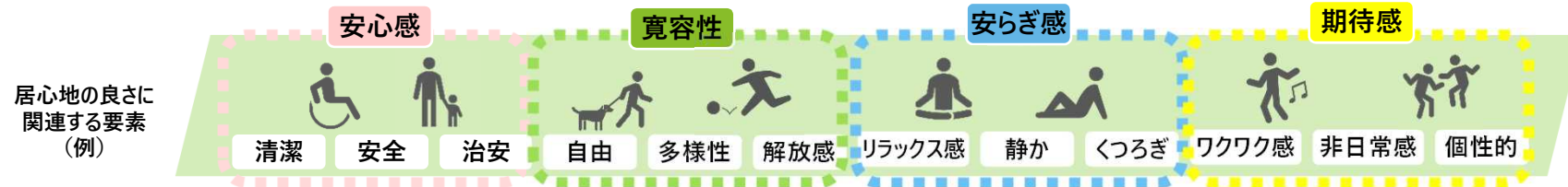
2章2. (P10) の通り、本指標は、居心地の良さを安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の4つにグルーピングし、構成します。各要素を下記のように定義します。

#### ■ 居心地の良さの4要素の定義

居心地の良さの要素	定義
期待感	<p>【<b>そ</b>こで行われる非日常的な活動への期待・喜びを創出する状態や要因・結果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 期待感にチェックがつくと、<u>その場やそ</u>こで行われる活動、他者との交流に対して期待感を持ち、積極的にいきたいと感じ、それを目的にわざわざ出向く可能性が高い</li><li>✓ 非日常が味わえる、人を誘っていきたい、他人にも教えたい</li></ul> <p>⇒少し離れたところからアクセスしてでも、そこで楽しめる時間を過ごしたいと思われる</p>
安らぎ感	<p>【<b>その場所</b>に安らぎを感じ、その場所に留まろうとする状態や要因・結果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 安らぎ感にチェックがつくと、<u>ゆっくりとくつろ</u>げることで滞在時間が増加しやすい</li><li>✓ リフレッシュしにわざわざ行く人もいれば、ちょっと休憩したいときにふらっと訪れるような人もいる（快適に過ごすためにこの場所を選び活動する／<u>一人でも楽しめる</u>）</li></ul> <p>⇒ちょっとした休憩やリフレッシュのために訪れ、落ち着いてゆっくり過ごしたいと思われる</p>
寛容性	<p>【<b>違和感や疎外感</b>がなく滞在・活動ができる状態や要因・結果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 寛容性にチェックがつくと、<u>滞在・訪問の間口を</u>広げ、<u>多様な人々</u>が集まりやすい（子ども～お年寄り、オフィスワーカー、外国人など様々な人を受け入れる）</li></ul> <p>⇒滞在・訪問の間口を拡張し、多様な属性の人々が滞在・活動しやすいと感じることができる</p>
安心感	<p>【<b>不快感</b>を感じず滞在・活動ができる状態や要因・結果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 安心感にチェックがつくと、<u>居心地の良さの最低レベル</u>を満たせる</li><li>✓ 本要素に分類される項目にチェックがつかないと、人を遠ざける要因となる</li></ul> <p>⇒ここが満たされないとそこに行こうと思わなくなる</p>

# 【コラム】居心地の良さを構成する4要素の抽出

以下に示しているように、居心地の良さに関連する要素は多くあります。まちづくりの実践者を対象としたアンケート結果および文献等を参考に、居心地の良さを「安心感」「寛容性」「安らぎ感」「期待感」の4要素にグルーピングしました。



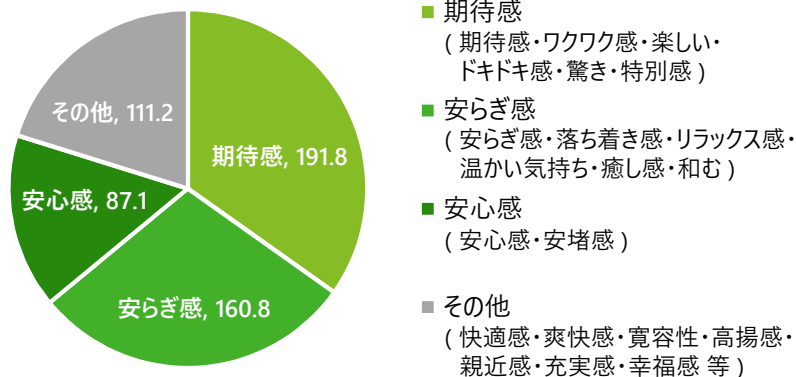
## ■ まちづくり実践者アンケート結果

まちづくり実践者に「居心地が良い」「歩きたくなる」と感じられるシーンにおける感情についてアンケート調査を行い分析しました。その結果、「期待感」「安らぎ感」「安心感」に関する回答が多く見られたことから採用しました。

### ポイント集計方法

- 1回答1ポイントとし、感情を分類しました
- 2つ以上の要素を含む回答は内容に応じ、得点が1になるよう点数を配分しています  
(例：「安心して過ごせる安らぎ感」→安心感：0.5、安らぎ感：0.5)

「居心地が良い」+「歩きたくなる」の合計ポイント

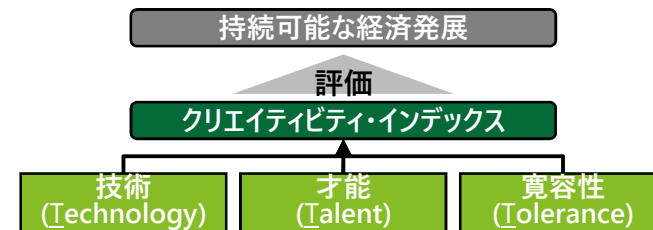


## ■ 寛容性に関する文献調査

近年、急速なデジタル化・グローバル化の進展や、LGBTをはじめとした多様な価値観が共存する社会づくりが求められる中で、都市においても、多様な人々を受け入れる、「寛容性」のあるまちづくりが重視されています。

リチャード・フロリダ氏は著書の中で、持続可能な経済発展において、技術・才能と並び寛容性が重要であると述べています。また、「地方創生のファクター-X寛容と幸福の地方論 (LIFULL HOME'S総研)」では、寛容性は地元に住む人の離脱意向を抑え、地域の経済活性化に寄与する多様性を育む要素と述べられるなど、書籍・論文等で、都市における寛容性の重要性が着目されています。

こうした、社会的潮流や文献からわかるように、多様な人を受け入れることはまちに重要な要素であると考え「寛容性」を採用しました。



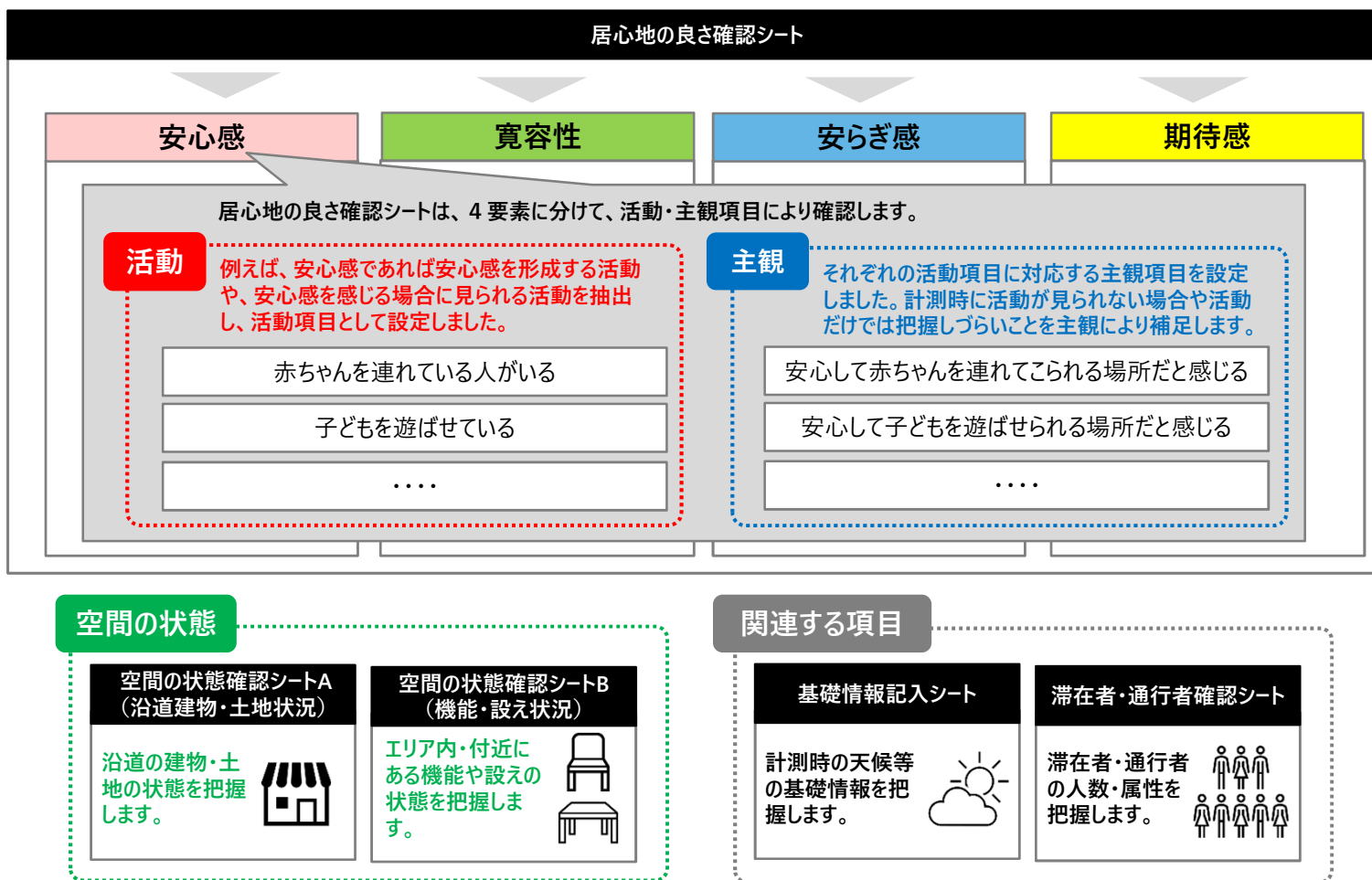
出所：The Rise of the Creative Class, Revisited (10th Anniversary Edition), (Basic Books, 2012).  
井口典夫訳『新クリエイティブ資本論——才能が経済と都市の主役となる』  
(ダイヤモンド社, 2014年)

### 3. 本指標の構成

#### (1) 本指標の構成

2章1. (P8-9) の通り、本指標は、人間の視点に基づき、活動・主観・空間の状態とそれらに関連する項目で構成します。  
「活動」「主観」は「居心地の良さ確認シート」、「空間の状態」は「空間の状態確認シートA・B」、「関連する項目」は「基礎情報記入シート」および「滞在者・通行者確認シート」で把握します。

#### ■ 本指標の構成





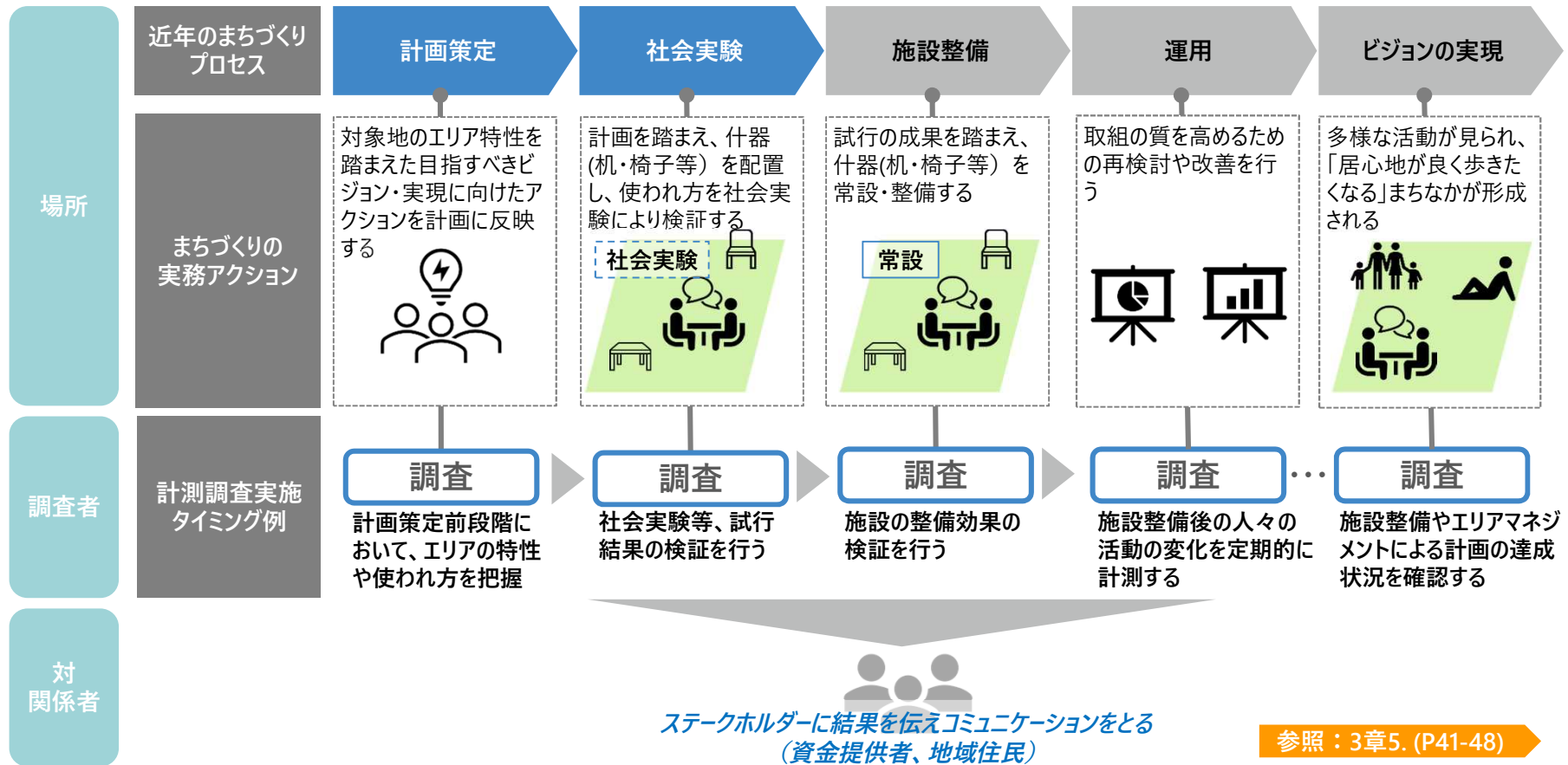
# 4. 本指標の活用方法

## (1) まちづくり活動のプロセスに応じた状態を把握する活用イメージ

近年、まちづくりの仕組みが、従来のハード整備・維持管理を中心とするものから、LQC（Lighter、Quicker、Cheaper）アプローチと呼ばれるような、最初から大規模なハード整備を実施するのではなく、仮設・暫定利用、実験など小規模な取組により試行・検証・改善を重ねながら段階的に育てていく方法に変化しています。

それらの各段階において、本指標によりまちなかの状態を定期的・定点的に把握することで、試行・検証・改善の一助となることを想定しています。本指標は、異なる都市間の比較のためではなく、特定のエリアで継続的に行う取組を向上させるためのツールです。

### ■ 近年のまちづくりプロセスにおける本指標の活用想定



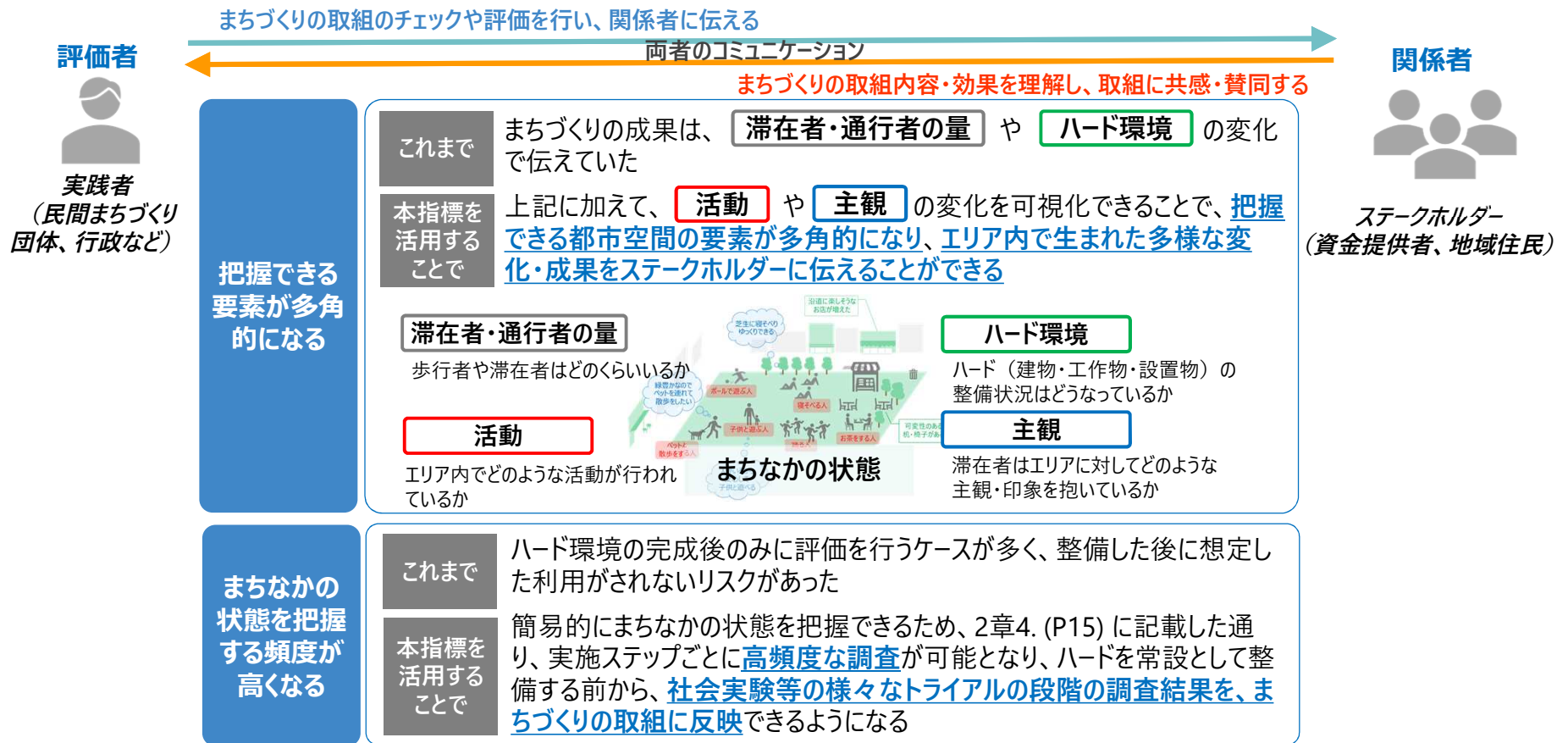
参照：3章5. (P41-48)



# 4. 本指標の活用方法

## (2) 本指標活用のメリット

本指標は、民間まちづくり団体や行政が自ら実施するまちづくりの取組の効果を把握をする等、様々な主体において様々な目的で使用できます。特に、まちづくりの現場において、取組によって得られた効果を、これまでよりもわかりやすく多角的に可視化できることで、ステークホルダーとの**よりよいコミュニケーションツール**となり、活動意義と継続の必要性の共感の輪を広げることができます。



- メリット①** これまでよりもわかりやすいかたちでまちづくりの効果が可視化され、共感を得る
- メリット②** 高頻度でPDCAを回せるようになり、本質的に居心地が良く、使われるまちなかになる

※その他、行政が発注した事業の事業評価をする際にも活用が期待できる

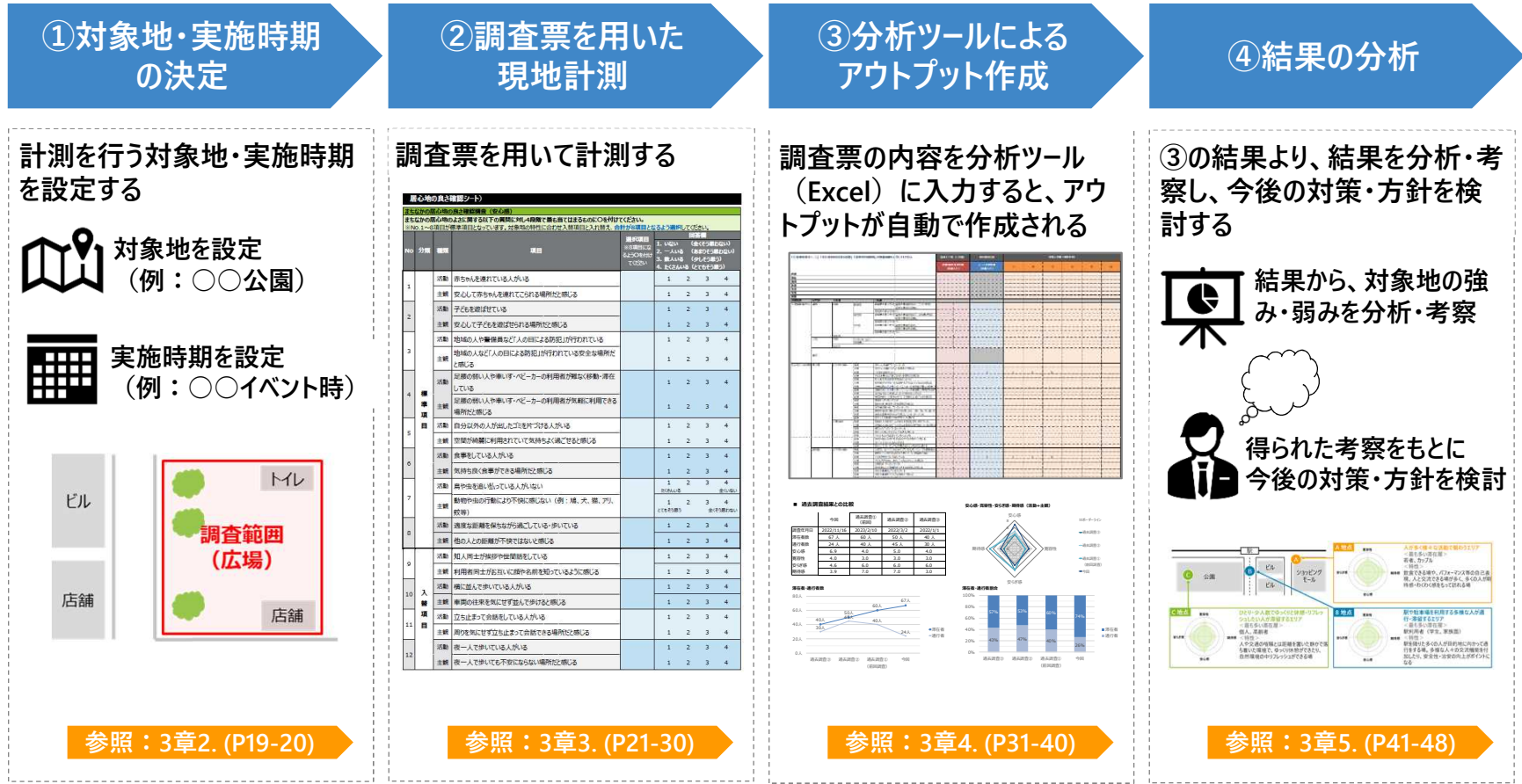
## 3章 調査要領

---

# 1. 本指標の実施ステップ

## (1) 実施ステップ

実施ステップは以下の図の通り、① 対象地・実施時期の決定、② 調査票を用いた現地計測、③ 分析ツールによるアウトプット作成、④ 結果の分析の4つのステップで構成されます。



## 2. 対象地・実施時期について

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

### (1) 対象地の選定について

計測する対象地を設定してください。

なお、本指標は「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を支援するものとして、多様な人々の出会い・交流拠点である**各都市のまちなかで活用されることを想定**し作成しています。ただし、活動を把握する手法は商業地に限らず、観光地・住宅地等の人の集まる場所において有効であるため、対象地の制約はございません。

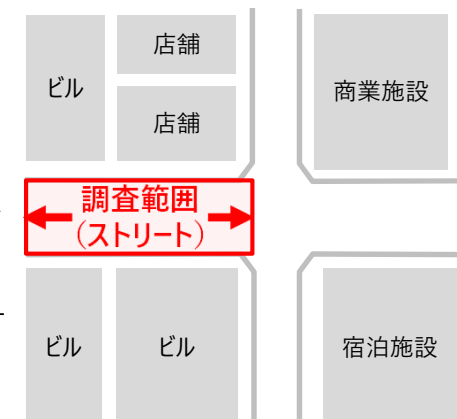
#### — 広場の場合

- 官地である公園や広場空間、民地であればエリア開発などによって創出されたオープンスペースや暫定活用が可能な低未利用地等、**一定の範囲のなかで人が滞在できるまちなかのオープンスペース**を、広場と捉えて計測を実施してください。
- 調査対象地内で、調査する範囲について、予め地図等から指定してください。
  - 対象広場の広さや利用方法等に応じて、調査範囲を設定します。  
広い公園など、対象地全体を計測することが困難な場合は、エリアを絞って計測してもかまいません。
  - エリア内の複数箇所を計測してその比較をすることも可能です。



#### — ストリートの場合

- 一定の延長がある通行空間**を、ストリートと捉えて計測を実施してください。
- 調査対象ストリート内で、調査する範囲について、予め地図等から指定してください。
  - 現地調査での負担を減らすため、対象ストリートの幅員や延長に応じて、調査範囲を設定します。
  - 車の交通量が多く幅員が広い場合や中央分離帯がある場合など、歩行者が物理的に道路の反対側へ渡ることが困難な通り（大通り等）については、ストリートの**片側半分**のみを調査範囲としてもかまいません（車道や反対側を調査対象から外す）。
  - 道路幅員が狭い場合や、歩車道分離がされていない場合など、歩行者が道路全体を移動しやすい通り（商店街通り等）については、ストリートの**全体**を調査範囲としてください。



## 2. 対象地・実施時期について

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

### (2) 実施時期について

以下に示す項目について調査条件を設定してください。調査は同地点において、以下の項目の条件を固定し、複数回行うことを前提に、留意事項を参考にしながら設定を行ってください。

#### 【条件設定方法：例】

- 平常時のまちの状態を比較する場合：天候、曜日、時間帯等を固定して、同じ条件下で定期的に計測・比較することで、まちの状態の経年的な変化を把握できる
- イベント等の有無による状態変化を検証する場合：天候や時間帯等を固定して、イベント等のある時とない時で計測・比較することで、イベント等によるまちの状態の変化を把握できる

項目	設定内容	留意事項
<input checked="" type="checkbox"/> 調査時期	春・夏・秋・冬 イベントの有・無	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 季節・天候（気温）・曜日・時間帯によって、人の活動状況には差がありますので、留意して設定してください。</li> <li>- 対象地だけでなく、周辺のイベントの有無も考慮して調査時期を設定してください。</li> <li>- 上記、条件設定方法の例を参考に、どのような条件設定にするのかを、調査目的に合わせ設定してください。</li> </ul>
<input checked="" type="checkbox"/> 天候	晴れ・曇り・雨（雪）	
<input checked="" type="checkbox"/> 曜日	平日・休日（祝日）	
<input checked="" type="checkbox"/> 時間帯	朝・昼・夜	

#### 【調査者について】

- ✓ 基本的に2～3人で分担して実施してください。
- ✓ 各調査者の選定にあたっては、結果に偏りが出ないように、できるだけ、性別・年代等、属性に偏りのない、2～3人を選定してください。

※分析ツールの入力シートには最大6人分の計測結果を入力することができます。



### 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：



#### (1) 調査票の構成

現地計測にあたっては、以下の5種類の確認シートを使用します。  
 現地計測での負担を減らすため、調査票の内「空間の状態確認シートA・B」の項目については、現地計測を実施する前に内容を確認し、回答可能な項目については事前に回答を行っても構いません。

シート名	確認対象	確認内容・回答方式	所要時間の目安	項目数
基礎情報記入シート	調査日の基礎情報	<u>調査日の基礎情報</u> 等を記入する	1分	7項目
空間の状態確認シートA (沿道建物・土地状況)	周辺建物・土地	利用状況別に <u>建物・土地の数</u> をカウントする	5分	14項目
空間の状態確認シートB (機能・設え状況)	対象地内・付近の施設	対象地内・付近の <u>施設の有無や充足</u> について確認を行う	10分	72項目
滞在者・通行者確認シート	滞在者・通行者	<u>滞在者・通行者の数</u> や <u>属性情報</u> をカウントする	5分	6項目×グループ数
居心地の良さ確認シート	滞在者・通行者の活動 計測者の主観	居心地の良さの4要素について <u>滞在者・通行者の活動</u> 、及び <u>計測者の主観</u> で4段階評価を行う	15分	安心感：8項目
				寛容性：8項目
				安らぎ感：8項目
				期待感：8項目

滞在者：3分以上、対象地にとどまっていると思われる人  
 通行者：滞在者以外の人

### 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

#### (2) 各調査シートの解説

基礎情報記入シート

まちなかの居心地の良さを測る指標  
調査票

①	年月日(曜日)	年 月 日 ( )		<input type="checkbox"/> 祝日			
	対象地名						
	イベント名 <small>(※イベントを行っている場合に記載)</small>						
	氏名						
	時間	開始時刻	時	分	終了時刻	時	分
	天候	開始時	晴れ・曇り・雨(雪)		終了時	晴れ・曇り・雨(雪)	
	気温	開始時		℃	終了時		℃
②	メモ	<small>(調査当日の居心地の良さ、滞在者数等に影響すると思われる特筆事項があれば記載してください) 例：風が強い、工事中の場所がある等</small>					

#### ①基礎情報記入シート

このシートは現地調査当日の基礎情報を記録するためのものです。

#### ① 基礎情報

以下の内容を記入してください。

- 調査した日の年月日、曜日  
(調査日が祝日の場合は、チェックボックスにチェックをつけてください。)
- 調査する地名
- 対象地でイベントや社会実験が行われている場合、その名称
- 調査票記入者氏名
- 調査開始時と終了時の時間、天候、気温

※対象地や周辺の詳細な情報は、分析ツールに記入します。

#### ② メモ

調査当日の居心地の良さ、滞在者数等に影響すると思われる特筆事項があれば記載してください。

例：風が強い、工事中の場所がある、周辺でイベントを実施している等

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

空間の状態確認シートA (沿道建物・土地状況)					
沿道建物・土地確認調査					
観察された建物、土地の数を項目ごとにカウントしてください。					
可視性選択肢： 利用者の様子が <u>見やすい</u> =利用者がいた場合に、その様子が <u>見やすい</u> しつらえになっている 利用者の様子が <u>見にくい</u> =利用者がいても、その様子が <u>見にくい</u> しつらえになっている					
No	カテゴリ	利用状況	施設種	可視性	交流誘発要素 （“正”の字を記入してメモを取りながら、カウントしてください）
①	建物	利用	飲食店 ※店舗敷地内で飲食をすることを主とする建物 (例：カフェ、レストラン等)	利用者の様子が <u>見やすい</u>	屋外の滞留空間あり (テラス席等)
				利用者の様子が <u>見にくい</u>	屋外の滞留空間なし
				利用者の様子が <u>見やすい</u>	屋外の滞留空間なし
		利用	販売店 (例：食品販売店、服飾店、雑貨・文具店、電器販売店、花屋、家具屋等)	利用者の様子が <u>見やすい</u>	屋外の滞留空間あり (店頭販売等)
				利用者の様子が <u>見にくい</u>	屋外の滞留空間なし
				利用者の様子が <u>見やすい</u>	屋外の滞留空間あり
		利用	その他 (例：娯楽施設、サービス業、公共施設等)	利用者の様子が <u>見やすい</u>	屋外の滞留空間なし
				利用者の様子が <u>見にくい</u>	屋外の滞留空間なし
				未利用	
②	土地	利用*		イベントの実施 (キッチンカーの設置等を含む)	
		未利用		実施なし	
		備考	※上記以外で「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出に貢献すると思われるもの若しくは阻害していると思われるものを記載		

\*：広場など滞留できる空間として利用されているか

## ②空間の状態確認シートA (沿道建物・土地状況)

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりには、歩きやすい空間づくりのみならず、まちの1階部分において人々の興味を引く、楽しい環境とすること、人々が思い思いの多様な活動ができる空間の形成、誰もに開かれ、滞在したくなるような空間づくりが必要です。

このシートは、沿道建物の1階部分（1階から見える地下部分を含む）や土地（スペース）の状況について確認するためのものです。

### ① 建物

観察された店舗・施設数を項目ごとにカウントしてください。

- 利用状況：何らかの施設として利用されているか、空き家・空き店舗か
- 施設種：施設の種別
- 可視性：1階部分はガラス張りで見えるなど、利用者の状態が見やすいか
- 交流誘発要素：テラス席、店頭販売等、屋外に滞在できる空間や人が活動できる空間が整備されているか



施設種：飲食店  
可視性：滞在者の様子が見やすい  
滞留空間：滞留空間あり



施設種：その他  
可視性：滞在者の様子が見にくい  
滞留空間：滞留空間なし

### ② 土地

観察された土地（スペース）を項目ごとにカウントしてください。

- 利用状況：広場等、利用できる空間として利用されているか、空地か  
※駐車場のよう、土地利用があるものの、滞留できる空間としての利用ではない土地は「土地→未利用」に分類されます。
- 交流誘発要素：イベントが実施されているか（キッチンカーの設置等を含む）

### ③ 備考

上記以外で「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出に貢献すると思われるもの、若しくは阻害していると思われるものを記載してください。

(例：1階部分がピロティになっている。著しく劣化した民家がある。)



# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：



## ③空間の状態確認シートB（機能・設え状況）

このシートは、調査対象地内を歩きながら、機能や設えの整備状況等について確認するためのものです。

### ① 空間の状態調査

小項目ごとに3段階で最も当てはまるものに○を付けてください。  
 ※整備されていない・判断できない場合は「3. 不明・該当なし」を選択してください。  
 ※項目の末尾に「※」マークのある項目はすぐ近くの周辺エリア（対象範囲外）も含めて確認し、回答してください。  
 ※歩きやすさ項目はストリート限定項目のため、広場では計測不要です。  
 ※シートは2枚あるため、忘れずに両シートの項目を確認してください。

49番以降の空欄項目には、空間の状態として把握しておきたい項目を自由に記入し計測してください。

①

空間の状態確認シートB（機能・設え状況）			
空間の状態調査			
空間の状態の整備状況に関する以下の質問に対し3段階で最も当てはまるものに○を付けてください。 <small>（整備されていない・判断できない場合は「3. 不明・該当なし」を選択してください）</small> <small>※末尾に「※」マークのあるものはすぐ近くの周辺エリア（対象範囲外）も含めて確認し、回答してください。</small>			
No	類型	項目	回答欄
1		飲食物を買うことができる設備・場所がある（※）	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
2		給水・手洗いができる場所がある（※）	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
3		雨天時・災害時に避難できる場所がある（※）	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
4		トイレが設けられている（※）	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
5		多目的トイレが整備されている（※）	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
6		案内所・掲示板・デジタルサイネージ等がある（※）	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
7		外国語の案内板が整備されている（※）	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
8		近くに交番・警察署がある（※）	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
9		人の活動エリアから隔離された場所に喫煙スペースがある（※）	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
10		荷物を預けられる場所がある（※）	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
11	滞在のしやすさ	イスやテーブルなどの設備に可変性がある	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
12		座れる場がある	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
13		自由に使えるテーブルがある	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
14		ゴミ箱が設けられている	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
15		子ども用の遊具がある	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
16		人が踏み込んで良い芝生が設けられている	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
17		建物外設置物（椅子・販売物等）の設置可能範囲が明確にされている	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
18		夜間照明設備が整備されている	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
19		段差の無い動線が整備されている	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
20		車いす利用者やベビーカー利用者の通行を妨げる障害物がない	1. ない 2. ある 3. 不明・該当なし
21		防犯カメラが設置されている	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
22		様々な目的で活用できるスペースがある（場を可変的に活用できる）	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
23		体操や運動に利用可能な場がある	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
24		イベントを開催できるスペースがある	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
25	Wi-Fi、電源が整備されている	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし	
26	（ストリート限定項目）歩きやすさ	点字ブロックや盲の導線の信号がある	1. ある 2. ない 3. 不明・該当なし
27		車両進入防止設備が整備されている	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
28		通路の表面にアスファルト以外の化粧材が整備されている	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし
29		歩行空間に建物等への車両進入口が設けられていない	1. ない 2. ある 3. 不明・該当なし
30		歩行中に足を止められる交差通路がない	1. ない 2. ある 3. 不明・該当なし
31		歩行者専用道路になっている（曜日や時間に応じた一時的な指定も含む）	1. はい 2. いいえ 3. 不明・該当なし
32		車道と歩道が分かれている	1. 分かれている 2. 分かれていない 3. 不明・該当なし
33		自転車レーンと歩道が分かれている	1. 分かれている 2. 分かれていない 3. 不明・該当なし
34		車両の速度を抑制する対策が講じられている（ゾーン30の指定、ハンプ、狭さく、シケイン等）	1. 十分にある 2. 不足している 3. 不明・該当なし

49	自由記述欄（必要に応じて記入し、自由記述欄に記入した項目は計測対象外とする）		1.	2.	3. 不明・該当なし
50			1.	2.	3. 不明・該当なし
51			1.	2.	3. 不明・該当なし
52			1.	2.	3. 不明・該当なし
53			1.	2.	3. 不明・該当なし
54			1.	2.	3. 不明・該当なし
55			1.	2.	3. 不明・該当なし

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

## ④滞在者・通行者確認シート

このシートは、滞在者・通行者の属性情報を確認するためのものです。

グループごとに各行の①～⑥の項目について、記録を行い、③～⑥については、その内訳人数を正の字でカウントしてください。

滞在者・通行者確認シート																
滞在・通行状況調査																
観察された滞在・通行者を項目ごとにカウントしてください。																
「滞在者」は3分以上その場周辺に「いる、またはその後3分以上その場に留まるとみられる人々のこと（例：ス）に遊んでいる人等を含む、一時的な」を含まない。）																
※グループは「滞在者」をカウントしてください。（性）は正の字を記入）																
※年齢の「高齢者」はWHOの定義より65歳以上とします。																
#	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体	性別			年齢					行動		国籍			
			男性	女性	わからない	幼児 ～ 小学生	中学生 ～ 大学生	社会人	高齢者	わからない	スタスタ歩 いている	のんびり歩 いている	日本人	外国人	わからない	
1	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
2	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
3	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
4	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
5	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
6	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
7	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
8	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
9	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
10	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
11	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
12	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
13	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
14	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
15	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
16	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
17	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
18	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
19	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														
20	滞在・通行	1人・家族・グループ・団体														

※計測時間は3分間です。

※人数が多くカウントしきれない対象地については、動画や画像を用いて確認することを検討してください。また、半分の区間・区域に限定して計測し、その人数を2倍にする等の対応をしていただいても構いません。

### ④ 年齢

年齢は見た目が一番近いと思うカテゴリーにカウントしてください。どうしてもわからない場合「わからない」にカウントしてください。

※ WHOの定義により65歳以上を高齢者の目安とします

### ⑤ 行動

スタスタ歩いている：早歩きで急いでいる

のんびり歩いている：おしゃべりしている、景色を眺めている等ゆっくりと歩いている

### ⑥ 国籍

日本人か外国人かをカウントしてください。

わからない場合は「わからない」にカウントしてください。

### ③ 性別

わからない場合は「わからない」にカウントしてください。

### ② グループ属性

滞在者・通行者がどのようなグループ構成なのか記入してください。

※家族は夫婦2人の場合も含みます。

※団体は10人以上で、ツアー等団体行動をしている集団のことを指します。

### ① 滞在・通行

その者・グループが「滞在しているグループ」か「通行しているグループ」か選択してください。

※滞在者：3分以上、対象地にどまっていると思われる人／通行者：滞在者以外の人

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

## 居心地の良さ確認シート

まちなかの居心地の良さ確認調査（安心感）  
 まちなかの居心地のよさに関する以下の質問に対し4段階で最も当てはまるものに○を付けてください。  
 ※No.1～8項目が標準項目となっています。対象地の特性に合わせ入替項目と入れ替え、合計が8項目となるよう選択してください。

①

No	分類	種類	項目	選択項目 ※8項目になるよう○を付けてください	回答欄
1	標準項目	活動	赤ちゃんを連れてきている人がいる		1 2 3 4
		主観	安心して赤ちゃんを連れてこられる場所だと感じる		1 2 3 4
2	標準項目	活動	子どもを遊ばせている		1 2 3 4
		主観	安心して子どもを遊ばせられる場所だと感じる		1 2 3 4
3	標準項目	活動	地域の人や警備員など「人の目による防犯」が行われている		1 2 3 4
		主観	地域の人など「人の目による防犯」が行われている安全な場所だと感じる		1 2 3 4
4	標準項目	活動	足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が難なく移動・滞在している		1 2 3 4
		主観	足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が気軽に利用できる場所だと感じる		1 2 3 4
5	標準項目	活動	自分以外の人が出したゴミを片づける人がいる		1 2 3 4
		主観	空間が綺麗に利用されていて気持ちよく過ごせると感じる		1 2 3 4
6	標準項目	活動	食事をしている人がいる		1 2 3 4
		主観	気持ち良く食事ができる場所だと感じる		1 2 3 4
7	標準項目	活動	鳥や虫を追い払っている人がいない		1 2 3 4
		主観	動物や虫の行動により不快に感じない（例：鳩、犬、猫、アリ、蚊等）		1 2 3 4
8	標準項目	活動	適度な距離を保ちながら過ごしている・歩いている		1 2 3 4
		主観	他の人との距離が不快ではないと感じる		1 2 3 4
9	入替項目	活動	知人同士が挨拶や世間話をしている		1 2 3 4
		主観	滞在者・通行者同士がお互いに顔や名前を知っているように感じる		1 2 3 4
10	入替項目	活動	横に並んで歩いている人がいる		1 2 3 4
		主観	車両の往来を気にせず並んで歩けると感じる		1 2 3 4
11	入替項目	活動	立ち止まって会話をしている人がいる		1 2 3 4
		主観	周りを気にせず立ち止まって会話できる場所だと感じる		1 2 3 4
12	入替項目	活動	夜一人で歩いている人がいる		1 2 3 4
		主観	夜一人で歩いても不安にならない場所だと感じる		1 2 3 4

※逆転項目（他の項目と評価の向きが逆になっている項目）には回答欄の数字の下にルビが振ってあります。ルビに合わせて回答してください。

## ⑤居心地の良さ確認シート

このシートは、確認した広場・ストリートの環境の居心地の良さについて「活動」「主観」項目から確認するものです。

以下の解説を参考に回答してください。

### ①まちなかの居心地のよさを測る指標

小項目ごとに現場で行われている活動【活動】と、対象地で滞り・通行して感じられること【主観】を、4段階で最も当てはまるものに○を付けて回答してください。

※事前に把握している知識は用いず、現場で確認された内容をもとに回答してください。

### 活動の4段階の考え方

1. いない  
(全くそう思わない)

2. 一人いる  
(あまりそう思わない)

3. 数人いる  
(少しそう思う)

4. たくさんいる  
(とてもそう思う)

※イメージは目安です。活動内容によってはあまり見られない項目もあるため、割合は適宜調整してください。

### 選択項目について

広場・ストリート共通でみられる活動を標準項目として設定していますが、対象地の特性に合わせ、他の活動のほうが計測対象として望ましい場合には、入替項目と入替をしてください。

※必ず選択した項目数が8項目になるよう設定してください。

※過去の調査と比較するため、できるだけ過去の調査と選択項目を変えずに使用することが望ましいですが、1度調査した後に精査を行い、選択項目を見直すことも可能です。

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

## ■ 個別調査項目の解説と計測時の注意点（安心感）

### 安心感

【不快感を感じず滞在・活動ができる状態や要因・結果】

- ✓ 安心感にチェックがつくことで居心地の良さの最低レベルを満たせる
- ✓ 本要素に分類される項目にチェックがつかないと、人を遠ざける要因となる（そこに行こうと思わなくなる）

凡例：● 設定の意図、✓ 計測時の注意点

#	分類	種類	項目	設定の意図・計測時の注意点
1		活動	赤ちゃんを連れてくる人がいる	● 泣き声の心配、おむつ替えの心配など赤ちゃんとの行動は気がかりが多いが、安心して連れていける場であるということ ● 赤ちゃんがハイハイできる等、清潔感等が担保されていると感じているということ
		主観	安心して赤ちゃんを連れてこられる場所だと感じる	
2		活動	子どもを遊ばせている	● 子どもの親がその場所の安全性が担保されていると感じているということ
		主観	安心して子どもを遊ばせられる場所だと感じる	
3		活動	地域の人や警備員など「人の目による防犯」が行われている	● 地域の人や警備員などに見守られている場所は、一定の防犯効果が期待できるということ
		主観	地域の人など「人の目による防犯」が行われている安全な場所だと感じる	
4		活動	足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が難なく移動・滞在している	● 例えばバリアフリー環境が整備されている等、ハンディキャップを持つ人や子ども連れでも安全に移動・滞在することができるということ
		主観	足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が気軽に利用できる場所だと感じる	
5	標準項目	活動	自分以外の人が出したゴミを片づける人がいる	● 自分以外の人が出したゴミを片付ける意図がある、その場所を綺麗にしたいと考えている人がおり、清潔感があり、衛生的に安全な空間につながるということ ✓ 自分以外の人が出したゴミを片付ける等、対象地の環境維持のための自主的な活動を対象とする ✓ 常に清掃が入るような場所では発現しづらい活動のため入替項目と入替を行う
		主観	空間が綺麗に利用されていて気持ちよく過ごせると感じる	
6		活動	食事をしている人がいる	● その場所が食事ができるくらい清潔・衛生的な空間であるということ
		主観	気持ち良く食事ができる場所だと感じる	
7		活動	鳥や虫を追い払っている人がいない	● 特定の要因により動物や虫が異常に発生することなく、清潔感があり、衛生的に安全な空間であるということ ✓ 自然に動物・虫が発生しているのではなく、ごみの散乱等、特定の要因で動物・虫が発生しており、不衛生に感じるかどうかという軸で確認する
		主観	動物や虫の行動により不快に感じない（例：鳩、犬、猫、アリ、蚊等）	
8		活動	適度な距離を保ちながら過ごしている・歩いている	✓ 人との距離を保つことができ、各自のパーソナルスペースが確保できるということ
		主観	他の人との距離が不快ではないと感じる	
9		活動	知人同士が挨拶や世間話をしている	● 滞行者・通行者同士がお互いの顔や名前を知っている等、地域のコミュニティが形成されているということ
		主観	滞行者・通行者同士がお互いに顔や名前を知っているように感じる	
10	入替項目	活動	横に並んで歩いている人がいる	● 車やバイクを気にせずに歩けるということ ✓ 明らかに周辺交通を阻害している場合は該当しない
		主観	車両の往来を気にせず並んで歩けると感じる	
11		活動	立ち止まって会話をしている人がいる	● 歩行者空間が安全であるということ ✓ 明らかに周辺交通を阻害している場合は該当しない
		主観	周りを気にせず立ち止まって会話できる場所だと感じる	
12		活動	夜一人で歩いている人がいる	● その場所に一定の防犯性が備わっていたり、夜間の歩行環境が整備されているということ
		主観	夜一人で歩いても不安にならない場所だと感じる	

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

## ■ 個別調査項目の解説と計測時の注意点（寛容性）

### 寛容性

【違和感や疎外感がなく滞在・活動ができる状態や要因・結果】

- ✓ 寛容性にチェックがつくと、**滞在・訪問の間口を広げ、多様な人々**が集まりやすい（子ども～お年寄り、オフィスワーカー、外国人など様々な人を受け入れる）

凡例：● 設定の意図、✓ 計測時の注意点

#	分類	種類	項目	設定の意図・計測時の注意点
1	標準項目	活動	入ること、近づくことをためらっている人がいない（沿道建物も含む）	● 外からでもその場所の様子が確認しやすく、また、その場所を利用しにくいと感じる人がいないということ
		主観	気軽に出入りできる場所だと感じる（沿道建物も含む）	✓ その場所や沿道建物の入口で入るか入らないか迷っている様子が見られない場合を対象とする
2		活動	子どもが声を出して遊んでいる	● 大人だけが楽しめる空間ではなく、子どもも楽しめる空間であり、子どもの多様な活動が受け入れられているということ
		主観	子どもが声を出して遊べる場所だと感じる	
3		活動	うたた寝をしている人がいる	● 居眠りをするという活動は、多様な活動が受け入れられた結果ということ
		主観	周りを気にせずうたた寝できる場所だと感じる	
4		活動	何かの練習をしている人がいる	● ダンス、楽器などの練習ができ、他の滞在者・通行者からも受け入れられているということ
		主観	何かの練習をしたい場所だと感じる	
5		活動	ペットを連れてきている人がいる	● ペットを連れてきた人だけでなく、連れていない人も空間を共有しているということ
		主観	ペットを連れて行ってもよい場所だと感じる	
6		活動	思い思いの時間を過ごしている	● 単一の目的のための場ではなく、各滞在者が気兼ねなく個人の時間を楽しみながら過ごせる場所であるということ
		主観	思い思いの時間を過ごすことができる場所だと感じる	
7	活動	想定外の活動が見られる（ウェディング撮影をしている等）	● 一見その場所に想定されていないような活動でも、周囲からの疎外感なく実施され、より多くのアクティビティが起こっているということ	
	主観	誰でもここで好きな活動ができる場所だと感じる		
8	活動	多様な服装の人がいる	● 様々な格好の人がいるということは、仕事の日のお昼に休憩する、遊びに来る、近所なので立ち寄りなど、様々なシーンで利用できるということ	
	主観	好きな格好で行っても良い場所だと感じる		
9	活動	電話、Web会議をしている人がいる	● 遊びだけではなく、仕事などでも利用できる場所だということ	
	主観	電話、Web会議をして発声が許容されると感じる		
10	活動	投稿用と思われる動画を撮影している人がいる	● 明るさや静けさ、背景等の条件が揃う必要がある、場所が限定される行為が受け入れられる場所だということ	
	主観	投稿用の動画撮影をしても良い場所だと感じる		
11	活動	周囲より遅いペースで歩いている人がいる	● 滞在・通行者が他人の行動により急かされることなく、自分のペースで歩くことができる場所であるということ	
	主観	自分のペースで歩ける場所だと感じる		
12	活動	ジョギングなどの軽い運動をしている人がいる	● ジョギング等動きのある活動をすることが許されている場所であるということ	
	主観	ジョギングなどの軽い運動ができそうな場所だと感じる		

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

## ■ 個別調査項目の解説と計測時の注意点（安らぎ感）

### 安らぎ感

【その場所に安らぎを感じ、その場所に留まろうとする状態や要因・結果】

- ✓ 安らぎ感にチェックがつくと、**ゆっくりとくつろげることで滞在時間が増加しやすい**
- ✓ リフレッシュしにわざわざ行く人もいれば、ちょっと休憩したいときにふらっと訪れるような人もいる

凡例：● 設定の意図、✓ 計測時の注意点

#	分類	種類	項目	設定の意図・計測時の注意点
1		活動	ぼーっとしている人がいる	● その場所が落ち着いており、ぼんやり考え事ができるような場所であるということ
		主観	ぼーっとできる場所だと感じる	
2		活動	座って休憩したり、くつろいでいる人がいる	● 気軽に立ち寄って休憩できるなど、落ち着いて過ごすことができる場所であるということ
		主観	座って休憩したり、くつろいでいたい場所だと感じる	
3		活動	横になって過ごしている人がいる	● 開放感が感じられ、横になるなど、のんびりと過ごすことができる場所であるということ
		主観	横になってくつろぎたい場所だと感じる	
4	標準項目	活動	座って読書をしたり、スマートフォン・タブレットを操作したりする人がいる	● ゆったりとくつろげるような、静かな場所であるということ
		主観	ゆったり読書をしたい場所だと感じる	
5		活動	花壇や緑などのそばでたたずむ人、眺める人がいる	● 身近な自然を感じ、リラックスできる場所であるということ
		主観	緑などに囲まれて自然を感じられる場所だと感じる	
6		活動	日光を楽しむ、日陰で過ごす人がいる	● 冬には日が当たる場所、夏には日陰になる場所があり、心地よく過ごせる場所であるということ
		主観	陽だまり、または日陰で過ごしたい場所だと感じる	
7		活動	景色を眺める人がいる	● 良好な自然景観、まちなみ景観を楽しみ、滞留したい場所であるということ
		主観	眺めたい景色があると感じる	
8		活動	散歩をしている人がいる	● 歩行路が整備されていたり、わざわざ眺めて歩きたい周辺環境・景観があるということ
		主観	ふらふらと歩きたい場所だと感じる	
9		活動	複数人で長時間滞在している人がいる（長時間：30分程度）	● 仲間と滞在したいと思えるほど、安らぎを感じているということ
		主観	誰かと長居したい場所だと感じる	
10		活動	お茶をしている人がいる	● その場所が落ち着いており、ゆっくりお茶をしながらくつろげる場所であるということ
		主観	ゆったりお茶をしたい場所だと感じる	
11	入替項目	活動	イヤホンなどで、一人で何かを聞いている人がいる	● イヤホンなどで一人で何かを聞く活動は、主にゆったりとくつろげるような、静かな場所であるということ ✓ スピーカーやイヤホン、ヘッドホン等を使用し、音楽やラジオ配信等の音声コンテンツを視聴しているような場合を対象とする
		主観	一人で音に耳を傾けたい場所だと感じる	
12		活動	ヨガや体操・ストレッチをしている人がいる	● その場所が落ち着いており、体を軽く動かしてリラックスできる場所であるということ
		主観	体を軽く動かしてリラックスできる場所だと感じる（ヨガや体操・ストレッチ等）	

# 3. 現地計測方法の解説

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

## ■ 個別調査項目の解説と計測時の注意点（期待感）

### 期待感

【そこで行われる非日常的な活動への期待・喜びを創出する状態や要因、結果】

- ✓ 期待感にチェックがつくと、**その場やそこで行われる活動、他者との交流に対して期待感を持ち、積極的に行きたいと感じ**、それを目的にわざわざ出向く可能性が高い
- ✓ 非日常が味わえる、人を誘って行きたい、他人にも教えたい

凡例：● 設定の意図、✓ 計測時の注意点

#	分類	種類	項目	設定の意図・計測時の注意点
標準項目	1	活動	笑いながら話をしている人がいる	● その場所が人を誘って行きたい場所であり、友人等と楽しむことができる場所であるということ
		主観	友人や恋人と来て過ごしたい場所だと感じる	
	2	活動	複数人で飲食をしている（ピクニックを含む）	● 複数人で食事をする場合は、落ち着いて過ごすよりも、楽しく過ごす場面が多いことから、期待感を確認できる ✓ 広場でピクニックをしたり、公共空間を活用した飲食店等で飲食をしている場合を対象とする
		主観	複数人で飲食をしたい場所だと感じる（ピクニックを含む）	
	3	活動	初めて会った人と交流している人がいる	● 滞在者が楽しむために来ているような場所では、他人同士の会話が偶発的に始まることで、新しい出会いが生まれやすいということ ✓ ペットを連れてきている人とその場にいた人が会話をしていたり、店主から地域の情報を教えてもらう人がいたりする場合を対象とする ✓ 客引きのような行為は対象外とする
		主観	人との新しい出会いがありそうな場所だと感じる	
	4	活動	何かに人が群がっている	● 誘引力を備えたものが存在しており、何かを目的に人が集まっているということ ● 面白そう・おしゃれ・雰囲気の良い人など、誘引力のあるような人がいる場所であるということ ✓ お店に並んでいる、パフォーマンスをしている人の周囲に人が集まっている等、人が集まっている場合を対象とする
		主観	面白そう・オシャレ・雰囲気の良い人がいる場所だと感じる	
	5	活動	沿道や近くでウィンドウショッピングや買い物をしている人がいる	● その場所に見て回りたい、興味をゆずられるものが存在するという
		主観	沿道や近くでウィンドウショッピングを楽しみたい場所だと感じる	
	6	活動	パフォーマンスをしている	● 来訪する人々の期待・喜びを創出し、パフォーマーからはそのような活動の場所として選定された場所であるということ
		主観	パフォーマンスができる場所だと感じる	
7	活動	子どもや大人が興奮して遊んでいる	● その場所に子どもや大人が興奮して遊べるようなコンテンツがある、魅力的な場所であるということ	
	主観	魅力的なコンテンツがあり、子どもや大人が楽しく遊べる場所だと感じる		
8	活動	写真を撮っている人がいる	● その場所が写真に映える・誰かにシェアしたいと感じられているような魅力的な場所であるということ	
	主観	写真に映える・誰かにシェアしたい場所だと感じる		
9	活動	音楽にのっている人がいる	● 音楽にのって楽しげにしている様子が見られるということ ✓ 流れている音楽とともに踊ったり、リズムをとったり音楽を楽しんでいる様子を対象とする	
	主観	雰囲気に合った音楽が流れていると感じる		
10	活動	絵を描いている人がいる	● その場所独自のものが存在し喜びや感動を感じ絵に残したい場所であるということ	
	主観	絵の題材にふさわしいシーンがある場所だと感じる		
11	活動	視察やツアー、旅行などで訪れている人々がいる	● その場所独自のものが存在し、視察・観光に来ているということ	
	主観	地域固有の景観やコンテンツがある場所だと感じる		
12	活動	食べ歩きをしている人がいる	● 食べ歩きは楽しくお出かけをする際に行われる活動であること、公共空間に対して開かれた飲食店が整備されているということ	
	主観	食べ歩きをしたい場所だと感じる		

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

現地計測後、調査結果を分析ツールの入力シートに入力してください。

入力シートは「入力①」「入力②」の2シートから構成されています。

入力後、計測した結果がアウトプットとして「調査結果概要シート」「調査結果詳細シート」に表示されます。

## 1. 基礎情報の入力（シート名：入力①）

このシートは調査対象地や調査日の情報等基礎情報を入力するための入力シートです。

■ 結果の出力内容については「調査結果概要シート」参照：3章4. (P35) で解説しています。

① 基礎情報の入力

① 基礎情報記入シートに基づき、対象地・調査日の情報を入力してください。

年月日・曜日	2022年11月16日 水曜日	(例)：〇〇年〇月〇日、と入力してください。 ※ プルダウンの選択後から、調査日の曜日も選択してください。
対象地名	〇〇ストリート	※ 調査日が「祝日」の場合、プルダウンから選択してください。 (例)：〇〇ストリート、〇〇通り、国道〇〇号線、〇〇公園、等を入力してください。
対象地所在地	東京都	
イベント名	〇〇イベント	※ イベント等を行っている場合に記載してください。
調査開始時刻	12:00	
調査終了時刻	15:00	
調査開始時の天候	晴れ	※ プルダウンの選択後から、「晴れ」または「曇り」、「雨」を選択してください。
調査終了時の天候	晴れ	※ プルダウンの選択後から、「晴れ」または「曇り」、「雨」を選択してください。
調査開始時の気温	18℃	
調査終了時の気温	19℃	

② 対象地が広場の場合は入力してください。 ※ わかる範囲で入力ください。また、項目・単位は調査変更していただく必要はありません。

計測範囲	300 m	
全体面積	300 m	※ 計測範囲と広場の全体面積が異なる場合に記載してください。

③ 対象地がストリートの場合は入力してください。 ※ わかる範囲で入力ください。また、項目・単位は調査変更していただく必要はありません。

計測範囲	300 m	
歩道の幅員	300 m	
歩道の幅員	300 m	
歩道を走る車の出入り口数	2カ所	

④ 広場・ストリートに関わらず、対象地の情報を入力してください。 ※ わかる範囲で入力ください。また、項目・単位は調査変更していただく必要はありません。

最寄り駅からの距離	300 m	
最寄りバス停からの距離	300 m	
道路情報：車線数	2車線	
道路情報：最高速度	2 km/時	
道路情報：ピーク時の車両交通量	2台/時	
道路情報：ピーク時の歩行者交通量	2人/時	

⑤ 周辺治安情報・備考を入力してください。 ※ わかる範囲で入力してください。

近隣地区の交通事故件数	1件	
近隣地区の犯罪発生件数	1件	
備考	イベントを実施していた	※ 調査当日の居心地の良さ、滞在者数等に影響すると思われる特筆事項があれば記載してください。

⑥ 調査の履歴情報を入力してください。(シート結果、履歴結果に表示され、過去調査との比較が可能)

調査回数	4回目	※ 同調査回数を入力してください。
前回からの主な取組 (2回目以降の場合)	前回調査からイベントの開催回数を増やした	(例)：「〇〇/XX/△△…」のように入力してください。

	過去調査① (前回調査)	過去調査②	過去調査③	
調査年月日	2023年2月10日	2022年3月2日	2022年1月1日	※ 過去の調査年月日を入力してください。
滞在者数	60人	50人	40人	※ 過去調査の滞在者数を入力してください。
進行者数	40人	45人	30人	※ 過去調査の進行者数を入力してください。
安心感	4点	5点	4点	※ 過去調査における安心感の点数 (活動・主観の合計) を入力してください。
寛容性	3点	3点	3点	※ 過去調査における寛容性の点数 (活動・主観の合計) を入力してください。
安らぎ感	6点	6点	6点	※ 過去調査における安らぎ感の点数 (活動・主観の合計) を入力してください。
期待感	7点	7点	3点	※ 過去調査における期待感の点数 (活動・主観の合計) を入力してください。

### ① 対象地・調査日情報の入力

対象地・および調査日の情報を入力してください。

### ② 広場情報の入力（広場のみ）

対象地が広場の場合、広場情報を入力してください。

### ③ ストリート情報の入力（ストリートのみ）

対象地がストリートの場合、ストリート情報を入力してください。

### ④ 対象地情報の入力（広場・ストリート共通）

対象地の最寄りの公共交通機関からの距離や道路情報を入力してください。

### ⑤ 周辺治安情報・備考の入力

対象地周辺の治安情報及び居心地の良さに関わるとと思われる特筆事項を記入してください。

### ⑥ 調査履歴情報の入力

対象地におけるこれまでの調査結果（「活動」「主観」の合計値）がある場合は、入力してください。

※ 対象地情報の交通量や周辺治安情報（事故件数、犯罪発生件数）は、既存資料をベースにわかる範囲で入力してください。



# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

① 調査者情報

② 調査項目  
(滞在者・通行者確認シート以外)

結果入力欄 (出力用)

平均値抽出欄

調査結果入力欄

過去調査結果入力欄 A

## II. 調査結果の入力 (入力①) 1/2

このシートは調査者情報や「滞在者・通行者確認シート」以外の調査結果を入力するための入力シートです。

- 調査票の記入内容については「空間の状態確認シートA・B」「居心地の良さ確認シート」  
参照：3章3. (P23-24,P26-30)
- 結果の出力内容については「調査結果概要シート」「調査結果詳細シート③～⑨」  
参照：3章4. (P35,37-40)  
で解説しています。

### ① 調査者情報の入力

調査票記入者の情報について入力してください。最大6人分の計測結果を入力することができます。

所属・職名・職種・氏名・性別・国籍：文字で入力してください。  
年齢：年齢を数字で入力してください。

### ② 回答の入力 (滞在者・通行者確認シート以外)

各確認シートの回答情報について各列の項目に対する調査結果を入力してください。

#### ○ 結果入力欄

調査票にカウント、又は○がつけられている数値を入力してください。

#### ○ 平均値抽出欄

結果入力欄に記入された数値の平均値が自動で計算されます。

#### ○ 結果入力欄 (出力用)

平均値等を参考に代表値を手動で入力してください。

※ 平均値をコピーする際は、計算式をコピーしないように注意してください。

※ 「自由記述欄」には必要に応じて空間の状態確認シートBの項を自由に追加できます。

過去調査結果入力欄 B

## 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

① 調査者情報

② 調査項目  
(滞在者・通行者確認シート以外)

結果入力欄 (出力用)

平均値抽出欄

調査結果入力欄

過去調査結果入力欄 A

### II. 調査結果の入力 (入力①) 2/2

過去に調査を実施している場合は、過去調査結果入力欄に過去の調査結果を入力してください。

#### ○ 過去調査結果入力欄A

「滞在者・通行者確認シート以外」の項目について、過去調査の数値を入力してください。

過去調査結果入力欄 B

#### ○ 過去調査結果入力欄B

「滞在者・通行者確認シート」の項目について、過去調査の数値を入力してください。

※ 過去調査結果は過去調査の分析ツールの対象セルの数値をコピー＆ペーストすることで簡単に入力することが可能です。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ:

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

B 「滞在(「滞行者・通行者確認シート」)の調査結果を入力してください。(入力結果はシート「入力①」に表示されます。)

入力不要	#	グループ情報		性別		年齢						行動		国籍		わからな	
		滞行者・通行	1人or家族orグループ	男性	女性	わからな	幼児～小	中学生～	社会人	高齢者	分からな	スタスタ	のんびり歩	日本人	外国人		
	1	滞	家族	1	3				4				1	3	3		1
	2	滞	グループ	10	3	2	1	4	3	4	3	5	10	10		5	1
	3	滞	グループ	8	8		2	3	11			16	15				1
	4	通	グループ	1	3				4			1	3	3			1
	5	通	団体	1	3	5	1	2	3	2		8	8				1
	6	通	団体	5	5				6	4		10	9				1
	7	滞	1人	10	10		3	7	8	1	1	3	17	15	5		
	8	滞	家族	3	5	2			8		2	3	7	10			
	9	通	1人	1				1				1	1				
	10	通	1人		1				1			1	1				
	11	滞	1人	1					1			1	1		1		
	12	滞	1人		1					1		1	1		1		
	13																
	14																
	15																
	16																
	17																
	18																
	19																
	20																
	21																
	22																
	23																
	24																
	25																
	26																
	27																
	28																
	29																
	30																
	31																
	32																
	33																
	34																
	35																
	36																
	37																
	38																
	39																
	40																
	41																
	42																
	43																
	44																
	45																
	46																
	47																
	48																
	49																
	50																
	51																
	52																
	53																
	54																
	55																
	56																
	57																
	58																
	59																
	60																
	61																
	62																
	63																
	64																
	65																
	66																
	67																
	68																
	69																

## II. 調査結果の入力 (入力②)

このシートは「滞行者・通行者確認シート」の調査結果を入力するための入力シートです。

■ 調査票の記入内容については「滞行者・通行者確認シート」

参照：3章3. (P25)

■ 結果の出力内容については「調査結果詳細シート①・②」  
で解説しています。

参照：3章4. (P36)

### ① 回答の入力 (滞行者・通行者確認シート)

滞行者・通行者確認シートの回答情報について入力してください。

#### ○ 選択回答方式の場合 (グループ情報)

回答した選択肢をリストから選択してください。

#### ○ カウント回答方式の場合 (性別・年齢・行動・国籍)

カウントされた数 (正の字) を数値に直して入力してください。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版 ver.1.0）調査結果概要

**① 基礎データ**

対象地名：	○〇ストリート (広場の場合)	(ストリートの場合)
対象地所在地：	東京都	
イベント名：	○〇イベント (共通)	

計測範囲：300 m	計測範囲：300 m	計測範囲：300 m
全体面積：300 m <sup>2</sup>	歩道の幅員：300 m	歩道の幅員：300 m
歩道を走る車の出入り口数：2 カ所	歩道を走る車の出入り口数：2 カ所	歩道を走る車の出入り口数：2 カ所

調査日時：2022年11月16日	水曜日 祝日	12:00 ~ 15:00
天気：(開始時) 晴れ	(終了時) 晴れ	
気温：(開始時) 18 °C	(終了時) 19 °C	

**治安情報**

近隣地区の交通事故件数：	1件
近隣地区の犯罪発生件数：	1件
備考：	イベントを実施していた

---

**② 人々の活動量**

通行者数：  人  
※ 通行者 = 滞在者以外の人

滞在者数：  人  
※ 滞在者 = 3分以上、対象地にとまっていると想われる人

交流者数：  人  
※ 交流者 = 二人以上で滞在していた人

写真

---

**③ 調査回数**

4 回目 前回：2023年2月10日

前回からの主な取組 (2回目以降の場合)

前回調査からイベントの開催回数を増やした

---

**⑤ 過去調査結果との比較**

	今回	過去調査① (前回)	過去調査②	過去調査③
調査年月日	2022/11/16	2023/2/10	2022/3/2	2022/1/1
滞在者数	67人	60人	50人	40人
通行者数	24人	40人	45人	30人
安心感	6.9	4.0	5.0	4.0
寛容性	4.0	3.0	3.0	3.0
安らぎ感	4.6	6.0	6.0	6.0
期待感	3.9	7.0	7.0	3.0

滞在者・通行者数

滞在者・通行者割合

安心感・寛容性・安らぎ感・期待感 (活動+主観)

入力シートに入力した調査結果が、調査結果シートにグラフ等により自動で表示されます。

調査結果シートは「調査結果概要シート」「調査結果詳細シート①～⑨」の10シートから構成されています。

なお、調査結果詳細シートは「直近1回分結果」と「4回分結果」の2種類を用意しています。用途に合わせてご使用ください。

## 調査結果概要シート

このシートは調査結果を簡単にまとめ、概要を共有するために用いる出力シートです。

### ① 基礎データ

「対象地名」「対象地住所」「調査日時」「調査日の気温」等の基礎データが表示されます。

### ② 人々の活動量

「通行者数」「滞在者数」「交流者数」が表示されます。  
※ 交流者数：二人以上で滞在していた人数

### ③ 調査回数

「同ストリートにおける今回の調査回数」「前回調査の調査日」「前回から今回にかけての主な取り組み内容」が表示されます。

### ④ 写真

調査時に取得した調査対象地の様子がわかる写真を貼り付けてください。

### ⑤ 過去調査結果との比較

過去・今回調査における、「通行者数」「滞在者数」を折れ線グラフ、滞在者・通行者割合を棒グラフ、「安心感」「寛容性」「安らぎ感」「期待感」の活動項目のスコアと主観項目のスコアの合計点を、レーダーチャートで表示しています。

※ なお、8点満点中5点（4段階評価の平均値）を「ボーダーライン」の初期値として設定しています。  
「計算集計シート：1列16～19行」の値を書き換えることでボーダーラインの値を変更することができます。

35

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

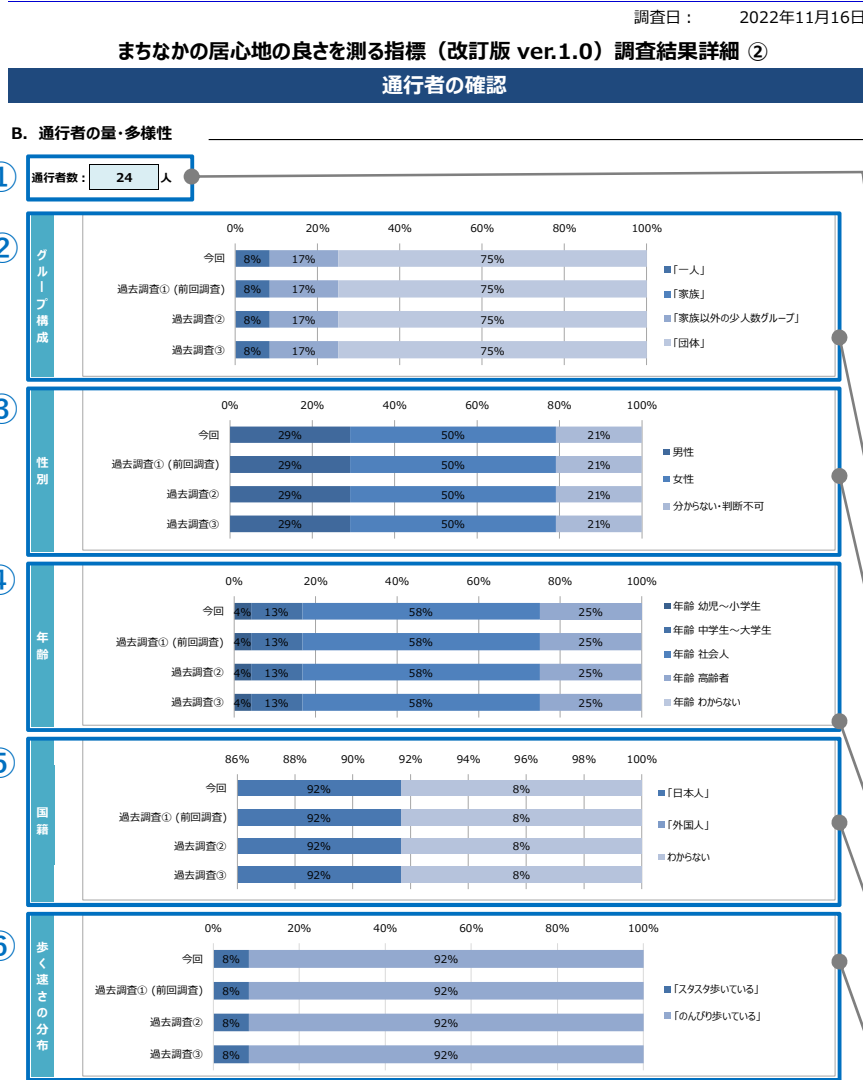
実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析



## 調査結果詳細シート①・②

調査結果詳細シート①・②では「通行者・滞在者確認シート」の結果を可視化しています。

■ 調査票の記入内容については「滞在者・通行者確認シート」

参照：3章3. (P25)

■ 結果の入力内容については「入力シート②」で解説しています。

参照：3章4. (P34)

※「歩く速さの分布」を除きシート①・②の表示内容は共通のため、シート②をサンプルに解説しています。

※グラフのデータラベルが重なる場合はオブジェクトを移動する等調整してください。

### ① 通行者数（滞在者数・交流者数）

今回の通行者数（滞在者数・交流者数）が表示されます。

### ② グループ構成

通行者（滞在者）のグループ構成が棒グラフで表示されます。

### ③ 性別

通行者（滞在者）の総数と性別ごとの人数が棒グラフで表示されています。

### ④ 年齢

通行者（滞在者）の年齢構成が棒グラフで表示されます。

### ⑤ 国籍

通行者（滞在者）の国籍（日本人／外国人／分からない・判別不可）が棒グラフで表示されます。

### ⑥ 歩く速さの分布（シート②のみ）

通行者が「スタスタ歩いているか」「のんびり歩いているか」が棒グラフで表示されます。

※通行者限定項目のため、シート①には表示されません。

### 【留意事項】

※ 滞在者：3分以上、対象地にとどまっていると思われる人

※ 通行者：滞在者以外の人

※ 交流者：二人以上で滞在していた人

（交流者は、調査結果詳細シート①のみ表示されます）

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

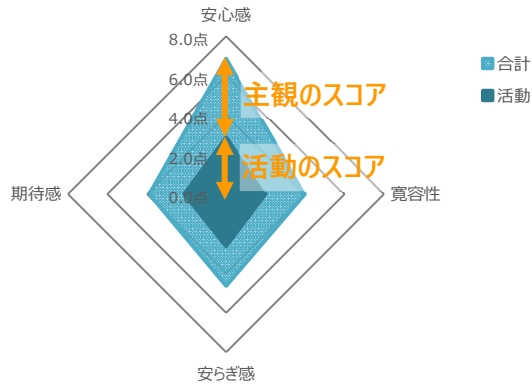
③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

調査日： 2022年11月16日

## まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版 ver.1.0） 調査結果詳細 ③

### ① 居心地の良さ確認結果（サマリー）



	活動	主観	合計
安心感	2.9 点 / 4点	4.0 点 / 4点	6.9 点 / 8点
寛容性	2.0 点 / 4点	2.0 点 / 4点	4.0 点 / 8点
安らぎ感	2.6 点 / 4点	2.0 点 / 4点	4.6 点 / 8点
期待感	2.1 点 / 4点	1.8 点 / 4点	3.9 点 / 8点

### 調査結果詳細シート③

調査結果詳細シート③では総合結果として居心地の良さを4要素のスコアをまとめています。

■ 調査票の記入内容については「居心地の良さ確認シート」

参照：3章3. (P26-30)

■ 結果の入力内容については「入力シート①」で解説しています。

参照：3章4. (P32)

#### ① 安心感・寛容性・安らぎ感・期待感 総合結果

「居心地の良さ確認シート」の安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の総合点・活動点が、レーダーチャートで表示されています。表では、安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の活動・主観のスコアが表示されています。

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

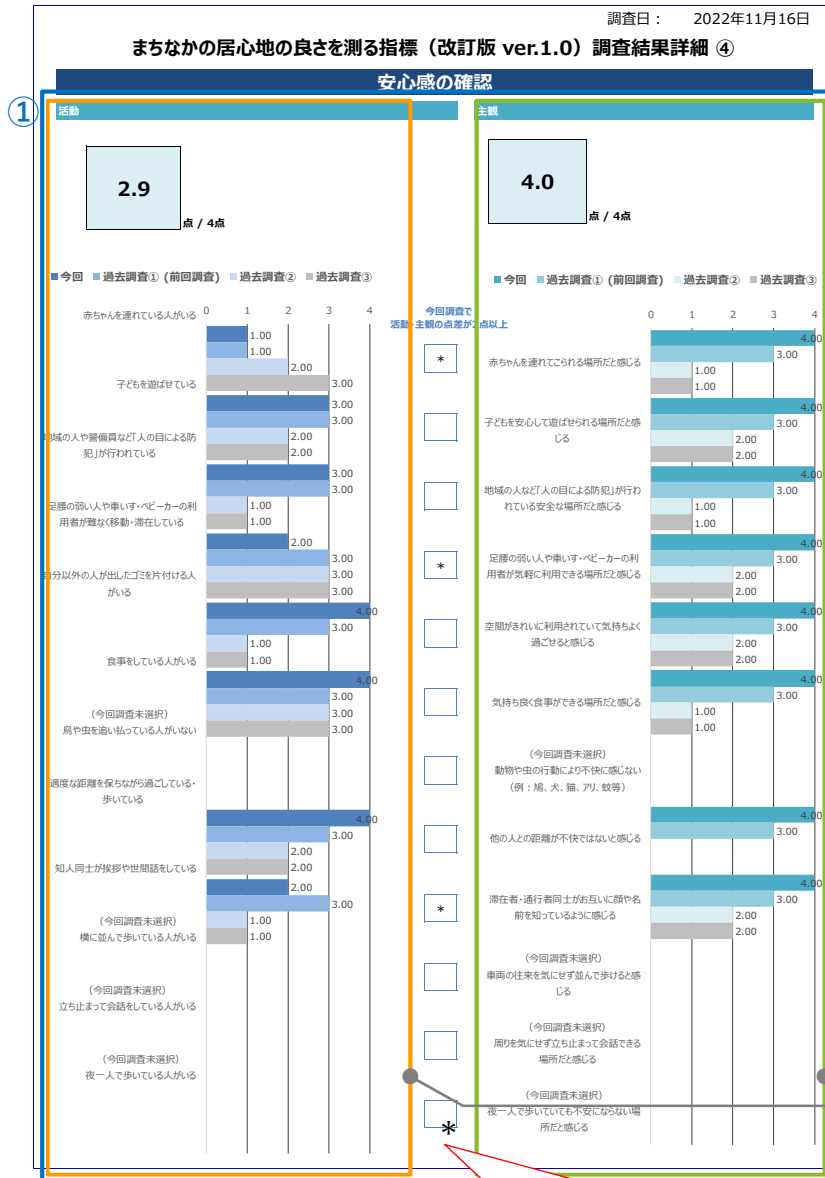
実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析



活動と主観のスコアが2点以上乖離する場合、\*が表示されます。分析の考え方は3章5. (P44) を参照してください。

## 調査結果詳細シート④・⑤・⑥・⑦

調査結果詳細シート④～⑦では「居心地の良さ確認シート」の結果をまとめています。

■ 調査票の記入内容については「居心地の良さ確認シート」

参照：3章3. (P26-30)

■ 結果の入力内容については「入力シート①」で解説しています。

参照：3章4. (P32)

### ① 安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の確認

「居心地の良さ確認シート」の設問項目別に獲得したスコアが、上から「今回」「過去調査①」「過去調査②」「過去調査③」の順に、棒グラフで表示されています。

※ ページ上部の点数には今回調査の各項目の平均値が表示されます。

※ 今回調査未選択項目には項目名の上に「（今回調査未選択）」と表示されます。

※ 過去の調査と比較するため、できるだけ過去の調査と選択項目を変えずに使用することが望ましいですが、1度調査した後に精査を行い、選択項目を見直すことも可能です。

※ 1回のみ調査の場合、分析ツールのExcelデータ上にある「結果\_詳細結果（直近1回分結果）」シートを使用してください。

○ 活動

活動項目の結果が表示されます。

○ 主観

主観項目の結果が表示されます

# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

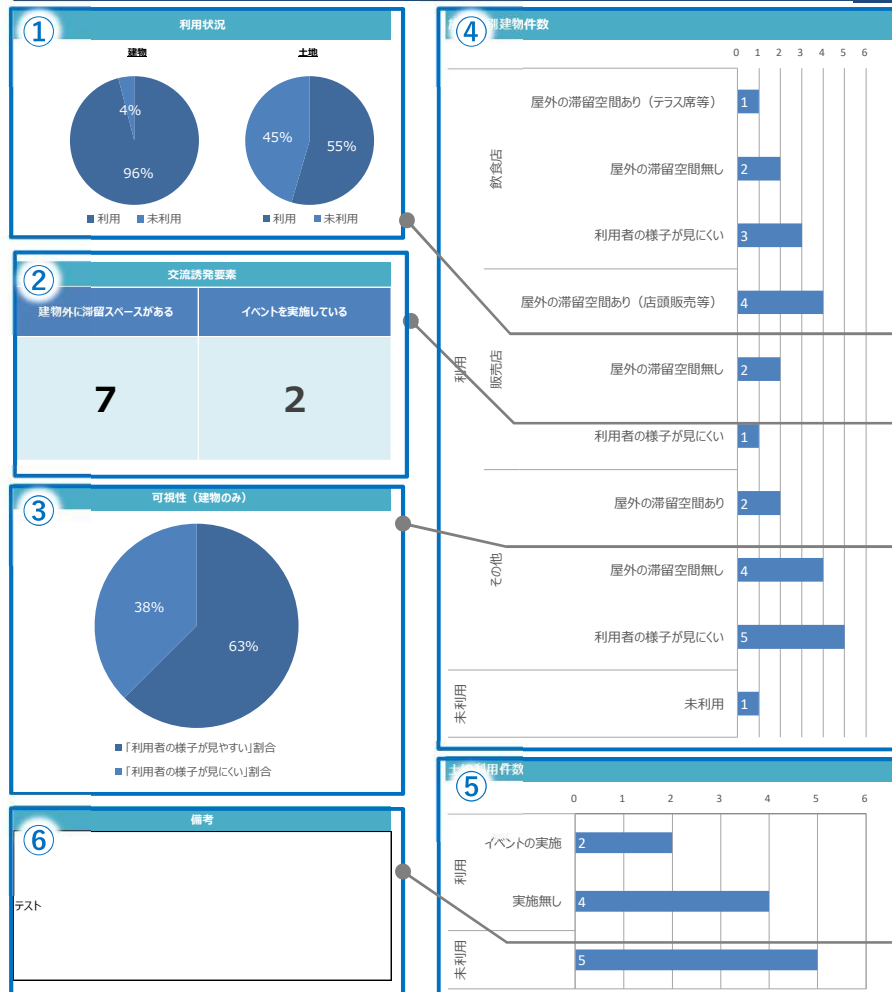
③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

調査日： 2022年11月16日

## まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版 ver.1.0） 調査結果詳細 ⑧

### 空間の状態確認結果A（沿道建物・土地状況）



### 調査結果詳細シート⑧

調査結果詳細シート⑧では「空間の状態確認シートA（沿道建物・土地状況）」の結果をまとめています。

- 調査票の記入内容については「空間の状態確認シートA（沿道建物・土地確認状況）」参照：3章3. (P23)
- 結果の入力内容については「入力シート①」参照：3章4. (P32) で解説しています。

#### ① 利用状況

建物・土地の利用状況を円グラフで表示しています。

#### ② 滞留空間

交流を誘発する要素である、「建物外に滞留スペースがある建物」「イベントを実施している土地」の数が表示されます。

#### ③ 可視性（建物のみ）

建物の中の利用者の状態の見やすさが円グラフで表示されます。利用者の様子が見やすい：利用者がいた場合に、その様子が見やすいしつらえになっている  
利用者の様子が見にくい：利用者がいても、その様子が見にくいしつらえになっている

#### ④ 施設種別建物件数

施設種別に建物の数が棒グラフで表示されます。

#### ⑤ 土地利用件数

利用状況、イベント情報別に土地の数が棒グラフで表示されます。

#### ⑥ 備考

調査項目以外で「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出に貢献すると思われるもの若しくは阻害していると思われるものとして記載した内容が表示されます。



# 4. 分析ツールの利用方法の解説

実施ステップ：



調査日： 2022年11月16日

## まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版 ver.1.0） 調査結果詳細 ⑨

### 空間の状態確認結果B（機能・設え状況）

分類	#	項目	結果	分類	#	項目	結果
滞在のしやすさ	1	飲食物を買うことができる設備・場所がある	✓	景観・雰囲気	40	アート・展示空間が整備されている	✓
	2	給水・手洗いができる場所がある	✓		41	電灯／樹木に、目にとまるような魅力的な装飾が設けられている	✓
	3	雨天時・災害時に避難できる場所がある	—		42	管理の行き届いた植栽（樹木・花壇等）が設けられている	—
	4	トイレが設けられている	—		43	錆び・破れ・落書き等がある広告物や看板がない	—
	5	多目的トイレが整備されている	—		44	空中に電線がない	✓
	6	案内所・掲示板・デジタルサイン等がある	✓		45	水の流れが設けられている	✓
	7	外国語の案内板が整備されている	✓		46	歴史・伝統を感じる建物がある	✓
	8	近くに交番・警察署がある	—	47	伝統的なお店がある	—	
	9	人の活動エリアから隔離された場所に喫煙スペースがある	✓	アクセ	48	近くに誰にでもすぐ使える駐車場がある	✓
	10	荷物を預けられる場所がある	✓		49	近くに誰にでもすぐ使える駐車場がある	✓
	11	イスやテーブルなどの設備に可変性がある	✓		50	近くに公共交通（駅・バス停）がある	✓
	12	座れる場がある	✓	その他	51	管理者が分かる掲示がある	✓
	13	自由に使えるテーブルがある	✓		52	運営主体や運営ルール明確になっている	—
	14	ゴミ箱が設けられている	✓		53	活動プログラムが実施され、適切な維持管理になっている	✓
	15	子ども用の遊具がある	✓	自由記述	54	記載なし	—
16	人が踏み込んで良い芝生が設けられている	—	55		記載なし	—	
17	建物外設置物（椅子・販売物等）の設置可能範囲が明確にされている	✓	56		記載なし	—	
18	夜間照明設備が整備されている	✓	57		記載なし	—	
19	段差の無い導線が整備されている	✓	58		記載なし	—	
20	車いす利用者やベビーカー利用者の通行を妨げる障害物がない	✓					
21	防犯カメラが設置されている	✓					
22	様々な目的で活用できるスペースがある（増え可変的に活用できる）	✓					
23	体操や運動に利用可能な場がある	✓					
24	イベントを開催できるスペースがある	✓					
25	Wi-Fi、電源が整備されている	✓					
26	点字ブロックや音の鳴る信号がある	✓					
27	車両進入防止設備が整備されている	—					
28	通路の表面にアスファルト以外の化粧材が整備されている	—					
歩きやすさ	29	歩行空間に建物等への車両進入口が設けられていない	—				
	30	歩行中に足を止められる交差点がない	—				
	31	歩行者専用道路になっている（曜日や時間に応じた一時的な指定も含む）	—				
	32	車道と歩道が分かれている	—				
	33	自動車レーンと歩道が分かれている	—				
	34	車両の速度を抑制する対策が講じられている（ゾーン30の指定、ハンプ、狭さく、シケイン等）	—				

### 調査結果詳細シート⑨

調査結果詳細シート⑨では「空間の状態確認シートB（機能・設え状況）」の結果をまとめています。

- 調査票の記入内容については「空間の状態確認シートB（機能・設え状況）」参照：3章3. (P24)
- 結果の入力内容については「入力シート①」参照：3章4. (P32) で解説しています。

#### ① 空間の状態確認結果B（機能・設え状況）

機能・設えの不足・充足や有無について表形式で表示しています。（「不明・該当なし」の場合は「—」）

下記の通り、設問に対する回答を「」「」「—」で表記しています。

\*：反転項目の場合は「」と「」が逆になっているため留意してください。

※「十分にある」「不足している」は調査者が対象地の目指す姿に対して十分か不十分かという観点でチェックをしてください。

	1	2	3
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	十分にある	不足している	不明・該当なし
	ある	ない	不明・該当なし
	ない*	ある*	不明・該当なし
	はい	いいえ	不明・該当なし
	分かれている	分かれていない	不明・該当なし

# 5. 結果の分析に関する考え方

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

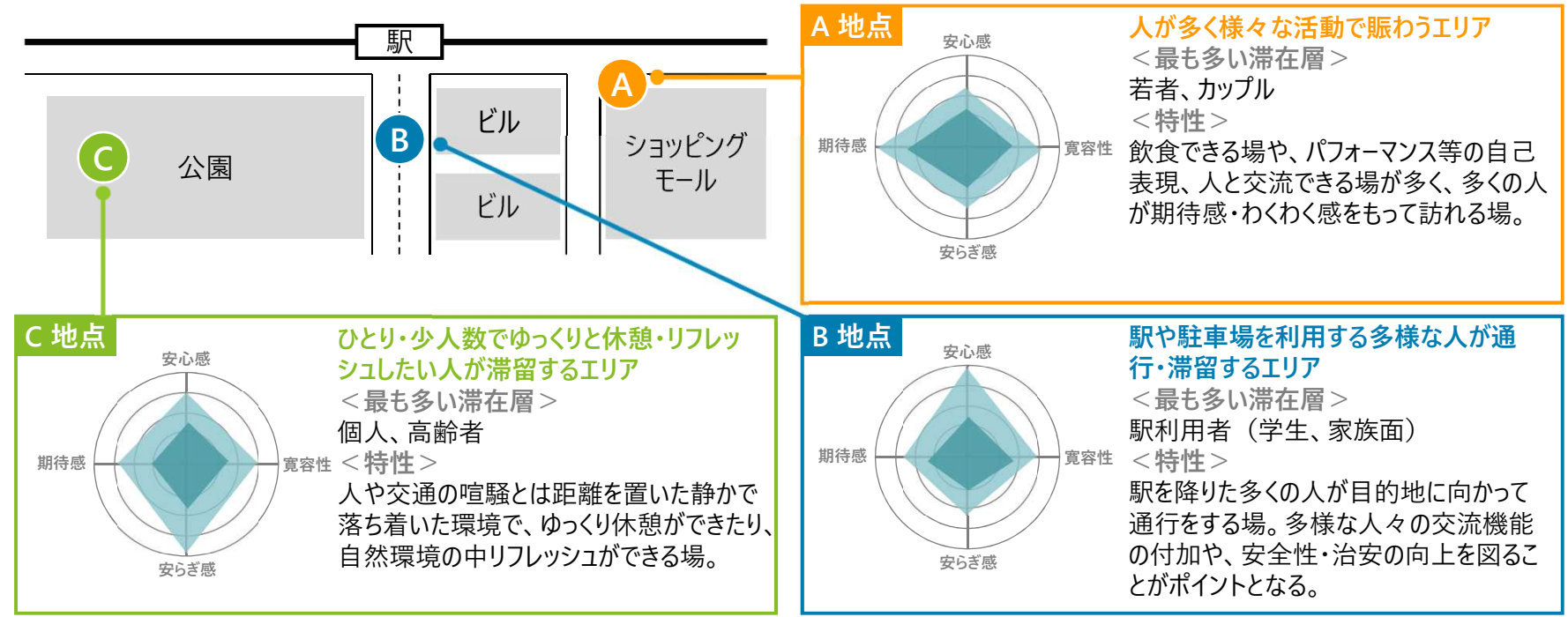
③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

本項では、本指標を活用したまちの状態を分析の視点をいくつか例示します。

## (1) エリア内の地点間比較

場所が持つ意味、価値には様々なものがありますが、本指標は、**地点ごとの場所の特性を把握する**場合にも有効です。  
同一都市内の複数の地点を計測する際に、各地点のレーダーチャートの**スコアが一樣に良いことを必ずしも目指す必要はありません**。各地点がとがった魅力を持ち、一定の層の滞在者が集まるような場を形成することで、エリア全体として多様な人が集まり交流できる都市を形成することも考えられます。



エリア内で一樣な取組を推進するのではなく、各地点の特性を踏まえ、**地点ごとの将来像・KPI等の検討**も可能です。  
**異なる特性を持つ多様な場が創出**され、結果として**多様な属性の人にとって居心地のよいエリア**が形成されます。

# 5. 結果の分析に関する考え方

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

## (2) 各要素の結果に関する考え方

本指標を用いて計測を行い、「調査結果詳細シート③」にて、安心感・寛容性・安らぎ感・期待感の総合評価をレーダーチャートで確認します。その際に、各要素のスコアが低かったり、さらなる向上を行いたい場合、各要素で下記のようなポイントに留意することで、各要素の改善が期待されます。取組のポイントはエリアの特性によって異なりますが、一般的なポイントとしてご参照ください。

### ■ 各要素を改善する際の視点

#### 安心感 を高めるためのポイント

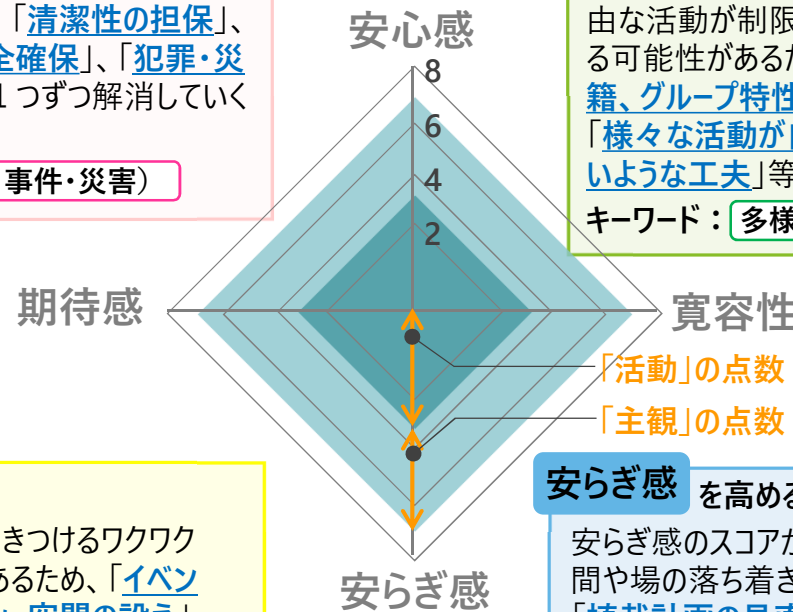
安心感のスコアが低い場合には、滞在者・通行者にとって最低限必要な基準を満たしていないため、「清潔性の担保」、「歩行者空間の交通事故等からの安全確保」、「犯罪・災害からの安全性確保」のような原因を1つずつ解消していくといったアクションが必要

キーワード： **衛生・清潔** **安全（事故・事件・災害）**

#### 寛容性 を高めるためのポイント

寛容性のスコアが低い場合には、一部の人のためには自由な活動が制限されたり、疎外感を感じる場となっている可能性があるため、「様々な属性（性別、年齢、国籍、グループ特性等）にのっての滞在のしやすさ」、「様々な活動が自由にでき、かつ他の活動を阻害しないような工夫」等を検討することが必要

キーワード： **多様性** **老若男女** **自由** **受け入れる**



#### 期待感 を高めるためのポイント

期待感のスコアが低い場合には、人を惹きつけるワクワク感・非日常性が不足している可能性があるため、「イベント・販売・パフォーマンス等ができる仕組み・空間の設え」、「非日常感・オリジナル感のある地域コンテンツの創出・活用」等を検討することが必要

キーワード： **会話** **交流** **賑わい** **店舗** **イベント**  
**デート** **アート** **パフォーマンス**

#### 安らぎ感 を高めるためのポイント

安らぎ感のスコアが低い場合には、滞在者が安らげる空間や場の落ち着き等が不足している可能性があるため、「植栽計画の見直し」、「騒音等の解消による静かな空間の確保」、「開放感やゆとりのある空間の確保」等を検討することが必要

キーワード： **落ち着き** **リラックス** **リフレッシュ** **自然**  
**くつろぎ** **休憩** **静けさ**

## 5. 結果の分析に関する考え方

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

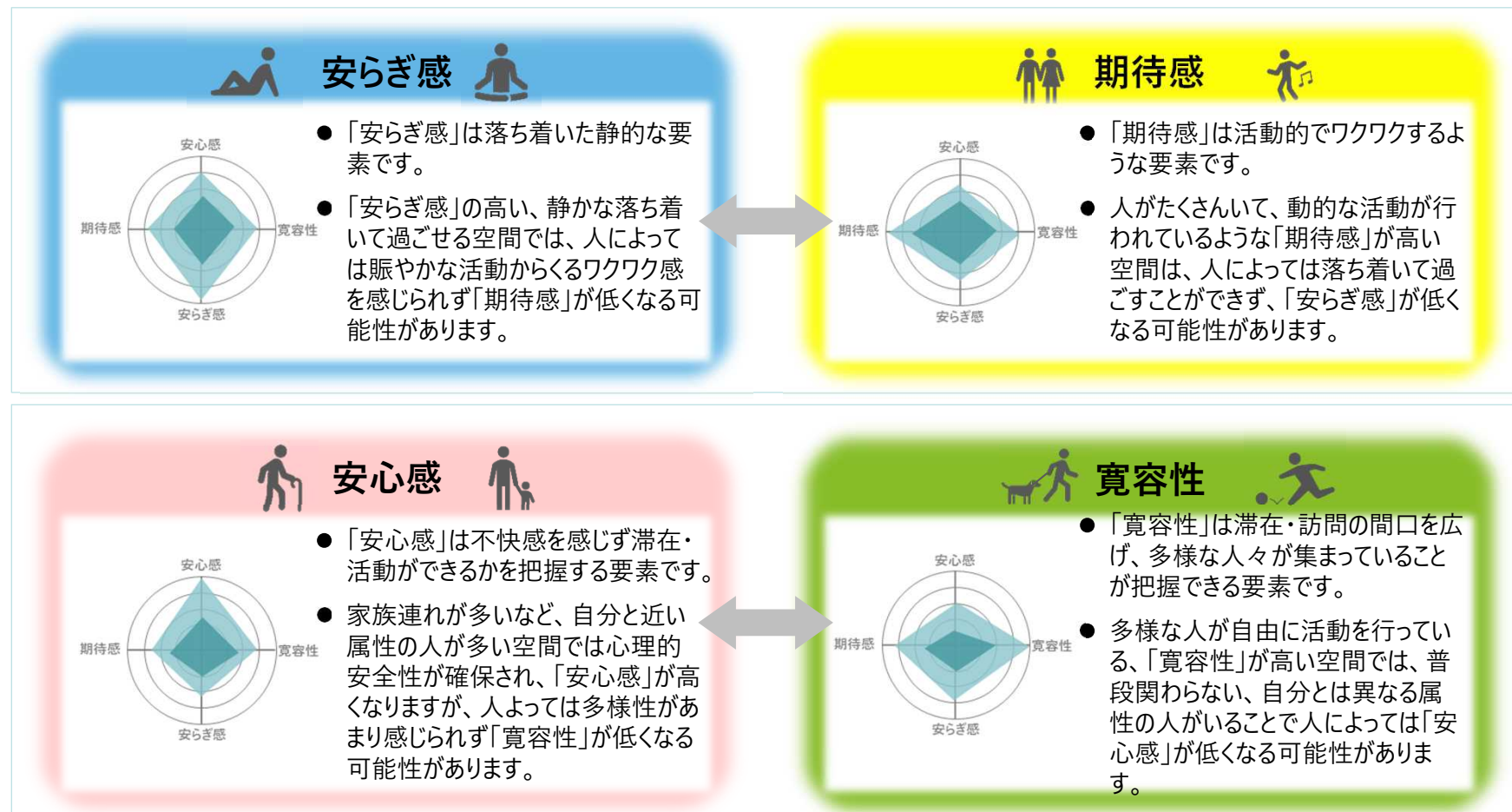
### (3) 各要素間の関係性

居心地の良さには様々な構成要素があり、各要素間では相反する概念や項目が含まれている場合があります。

例えば、下記のように、安らぎ感のスコアが高い空間では期待感のスコアが低くなるように、安らぎ感と期待感が相反するケースや、安心感のスコアが高い空間では寛容性のスコアが低くなるように、安心感と寛容性が相反するケースも見られます。

したがって、つくりたい空間はどちらを優先させるのか、または両者のバランスを取る必要があるのか関係者間で考えることが有効です。

#### ■ 各要素間の相反性



## 5. 結果の分析に関する考え方

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析

### (4) 活動と主観項目の比較

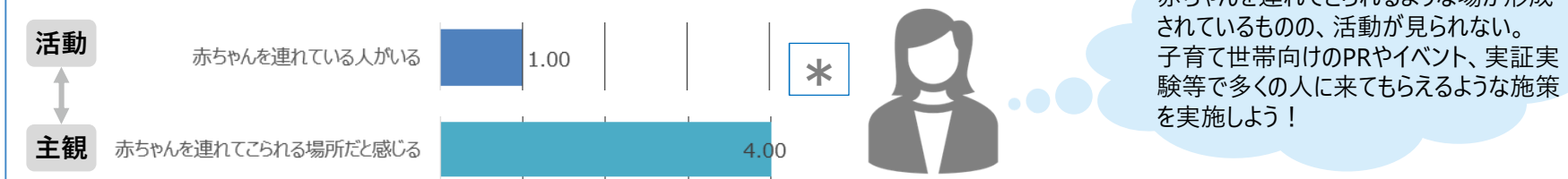
アウトプットの居心地の良さの結果において、活動項目と主観項目のスコアに差がある場合、その場所の実態（活動）と印象（主観）に何らかのずれがあるため、その要因を考えることで対象地の課題を見つけ、その解決策の立案につながる場合があります。

活動項目と主観項目に差がある場合は「調査結果詳細シート②」で項目の横に「\*」が表記されます。

#### ● 活動より主観のスコアの方が高い場合

活動より主観のスコアの方が高い場合、居心地が良いと感じられる空間であるものの、何らかの理由で活動が行われていないことを表します。

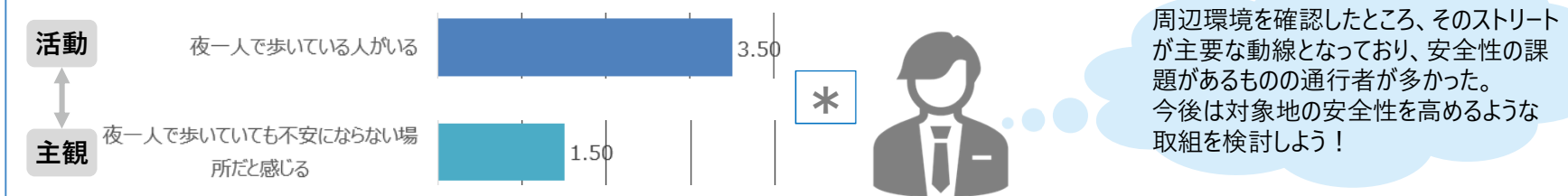
例：「赤ちゃんを連れている人がいる」と感じる人が多いものの、実際に赤ちゃん連れの人が見られない。



#### ● 主観より活動のスコアの方が高い場合

主観よりも活動のスコアの方が高い場合、居心地が良いと感じられない空間であるものの、何らかの理由で活動が起きていることを表します。

例：「夜一人で歩いても不安にならない場所」と感じる人は少ないものの、実際に歩いている人は多い。



活動項目と主観項目のスコアに差がある場合、その場所の実態（活動）と印象（主観）に何らかのずれがあるため、その要因を考えることで対象地の課題を見つけ、その解決策の立案につながる場合があります。

# 5. 結果の分析に関する考え方

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

④結果の分析


## (5) 特定の活動・主観に着目した経年比較

特定の活動や主観に着目し、項目の経年比較をすることで、居心地の良い空間を形成するために行った対策の効果等を把握できます。本指標の結果をもとに改善したい項目が発見された場合、それに対する対策を考え、対策後に再度計測を行うことでその効果を検証するツールとして活用できます。下記は一例ですが、対策の方法はハード整備に限らず、社会実験の実施、広報活動等様々あります。

### 1 回目調査

机や椅子が設置してあるものの、座って休憩したりくつろいでいる人がほとんどいなかった。

座って休憩したり、くつろいでいる人がいる



Score	1.50
-------	------

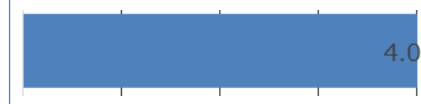
可変性のある机・椅子やレジャーシート等の貸出を行った



### 2 回目調査


座って休憩したりくつろいでいる人が増えた。

座って休憩したり、くつろいでいる人がいる



Score	4.00
-------	------


イメージ



出所：「ストリートデザインガイドライン」

座れるベンチはあるものの、複数人で飲食する様子が見られなかった。

複数人で飲食をしている（ピクニックを含む）



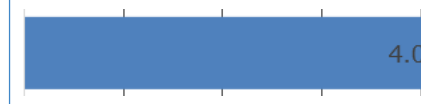
Score	1.00
-------	------

清掃活動を行い、キッチンカーを誘致する社会実験を行った




社会実験に伴い家族での来訪者が増加。キッチンカーで食べ物を購入しピクニックをしている様子が見られた。

複数人で飲食をしている（ピクニックを含む）



Score	4.00
-------	------

イメージ



出所：「ストリートデザインガイドライン」

# 5. 結果の分析に関する考え方

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

④結果の分析

## (6) 滞在者属性に関する考え方

本指標の調査結果詳細シート①・②(3章4. P36)にて、対象時間内に対象地にいる人を、滞在者・通行者に分け、その属性(グループ構成・性別・年代・国籍等)について、経緯を比較することができます。

滞在者・通行者数やその属性について分析するうえでのポイントを記載します。

### ■ 滞在者・通行者の割合について

本指標では、対象地に存在する人を、下記の定義で滞在者・通行者に分けて計測・可視化します。

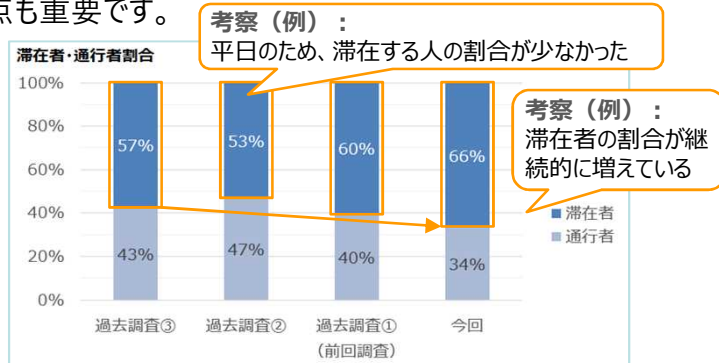
居心地が良く歩きたくなるまちなかの創出のため、全体の人の量(合計値)が増えていくことが望ましいですが、中でも対象地に長い時間滞在する「滞在者」が増加をしているかという視点で、まちなかの状態を把握することが重要です。

**滞在者** 3分以上、対象地にとどまっていると思われる人

**通行者** 滞在者以外の人

一般的に、まちなか空間では、平日に比べて休日の方がゆっくりと時間を過ごす「滞在者」が多くなる傾向にあります。

滞在者・通行者の割合は、平日・休日に分けて比較していく観点も重要です。



参照：3章2. (P19-20)

### ■ 滞在者・通行者の属性について

滞在者・通行者の属性については、グループ構成・性別・年代・国籍について、分布の割合を比較できます。

多くの人にとって居心地の良い、多様性のあるまちなかをつくっていくためには、偏りがなく、様々な属性が存在する姿を目指していくことが重要\*です。

また、存在する属性に偏りがなく、居心地の良さの4要素のうち、「寛容性」を高める要因になります。

※ただし、3章5. (P41)に記載した通り、特性の異なる地点を目指していく考え方もあるので、この限りではありません。

一般的には、特定の属性に偏りがなく、バランスがいいことが望まれます

グループ構成	一人	家族	家族以外の 少数グループ	団体
性別	男性		女性	わからない
年齢	幼児～ 小学生	中学生～ 大学生	社会人	高齢者
国籍	日本人		外国人	わからない
歩く速さの分布	スタスタ歩いている		のんびり歩いている	

## 5. 結果の分析に関する考え方

実施ステップ：

①対象地・  
実施時期の決定

②調査票を用いた  
現地計測

③分析ツールによる  
アウトプット作成

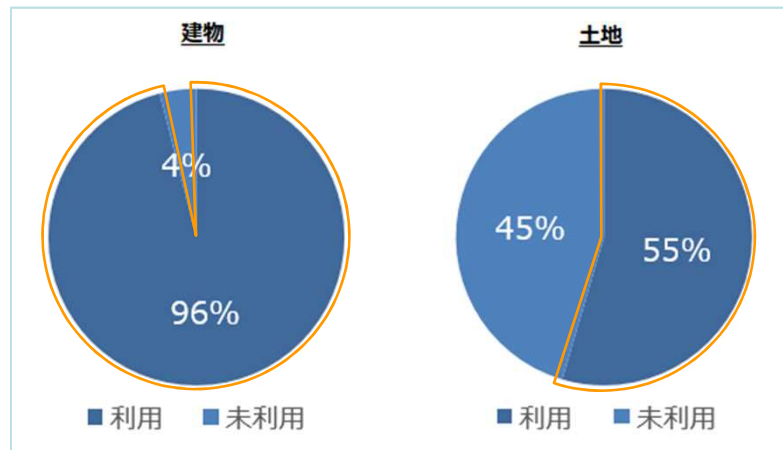
④結果の分析

### (7) 沿道の建物・土地の状況に関する考え方

本指標の調査結果詳細シート⑧（3章4. P39）にて、沿道の建物・土地の利用状況や可視性を確認できます。沿道の建物・土地の状況について考えるうえでのポイントを記載します。

#### ■ 建物・土地の利用状況について

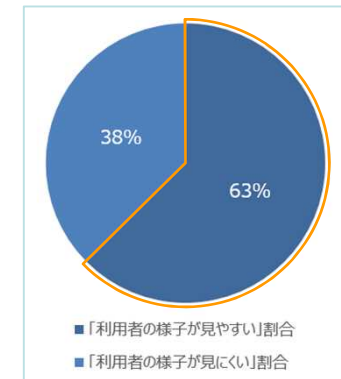
都市アセットが十分に活用され、まちなかに人が集まることで、まちなかの居心地の良さが向上すると考えられます。そのため、指標の1つとして、建物・土地の利用状況を定点的に確認し、「利用」されている割合を増やしていくことが重要です。



#### ■ 建物の可視性について

居心地が良く歩きたくなるまちなかにおいて、建物低層部がまちに開かれていることが重要です。（1章1. P4のEye levelの観点を参照）

エリア内事業者との連携により、1階部分をガラス張りにする等、建物内の利用者の様子が見やすい割合を増やしていくことが重要です。



#### ■ 屋外の滞留空間の有無について

さらに、エリア内の交流機能を高めるうえでは、建物と接する屋外空間に、オープンカフェがある、販売空間が外に出てきている等、屋外が滞留空間として活用されている状態が望ましいと考えられます。



#### ■ 施設種について

本指標では、沿道の施設・店舗の種類について、飲食店・販売店・その他・未利用に分類し、数を把握できます。

この数の増減についても、把握をすることで、まちなかの状態をより精緻に観測することができます。



# 5. 結果の分析に関する考え方

実施ステップ：

①対象地・実施時期の決定

②調査票を用いた現地計測

③分析ツールによるアウトプット作成

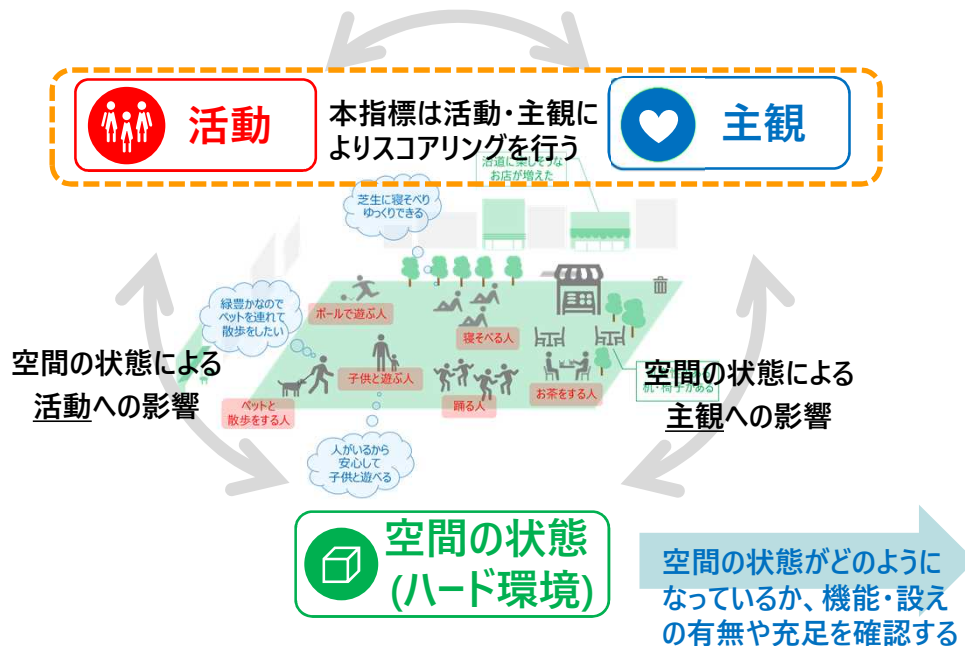
④結果の分析

## (8) 機能・設えの状況に関する考え方

本指標の調査結果詳細シート⑨(3章4. P40)にて、対象地の機能・設えの状況を確認できます。機能・設えの状況について考えるうえでのポイントを記載します。

**<凡例>**  
 ✓ : ある (十分にある)  
 空白 : ない (不足している)  
 - : 不明・該当なし

「2章2. (P9)」に記載の通り、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出にあたって、「活動・主観・空間の状態」を把握することが重要です。本指標では「活動・主観」によるスコアリングを行います。が、「空間の状態」が、「活動」、「主観」を創出する大きな要因となります。「活動」、「主観」のスコア(まちなかの居心地の良さ)を向上させるために、「空間の状態」を定点的に把握することは、エリアで今後の対策を検討する上でのヒントとなります。



分類	#	項目	結果
滞在のしやすさ	1	飲食物を買うことができる設備・場所がある	
	2	給水・手洗いができる場所がある	✓
	3	雨天時・災害時に避難できる場所がある	-
	4	トイレが設けられている	-
	5	多目的トイレが整備されている	✓
	6	案内所・掲示板・デジタルサイネージ等がある	-
	7	外国語の案内板が整備されている	✓
	8	近くに交番・警察署がある	✓
	9	人の活動エリアから隔離された場所に喫煙スペースがある	✓
	10	荷物を預けられる場所がある	-
	11	イスやテーブルなどの設備に可変性がある	✓
	12	座れる場がある	✓
	13	自由に使えるテーブルがある	✓
	14	ゴミ箱が設けられている	-
	15	子ども用の遊具がある	-
	16	人が踏み込んで良い芝生が設けられている	
	17	建物外設置物(椅子・販売物等)の設置可能範囲が明確にされている	✓
	18	夜間照明設備が整備されている	✓
	19	段差の無い導線が整備されている	✓
	20	車いす利用者やベビーカー利用者の通行を妨げる障害物がない	✓

## 参考資料

---

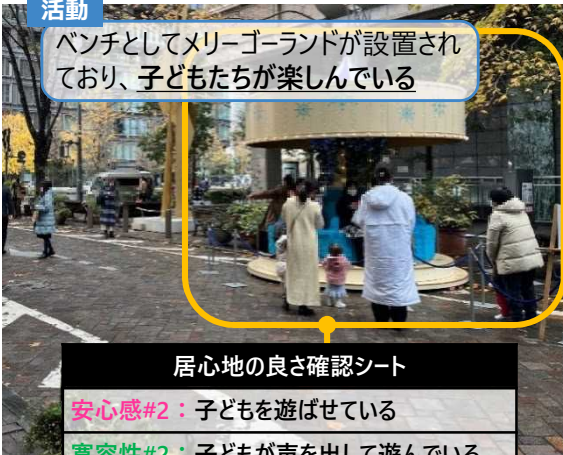
1. 計測イメージ
2. まちの状態の可視化に関連した文献・ツール等

# 【参考資料1】 計測イメージ

居心地の良さ確認シートでは滞在者・通行者がどのように場を利用しているか（活動）、どのように感じられるか（主観）を確認します。以下に、実際に見られた活動から確認できる活動項目を例示しました。居心地の良さ確認シートの計測時の参考としてご活用ください。

## 居心地の良さ確認シート 1/4

**活動**  
ベンチとしてメリーゴーランドが設置されており、子どもたちが楽しんでいる



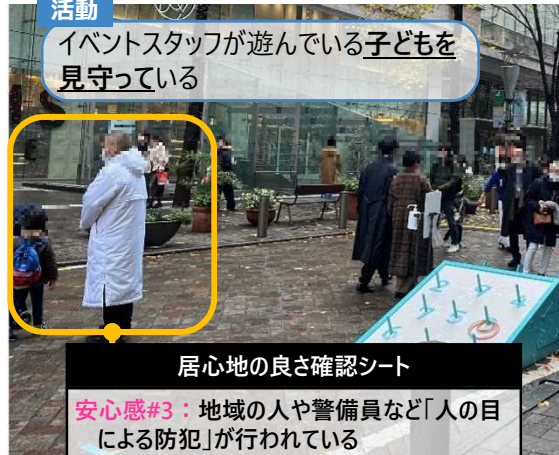
**居心地の良さ確認シート**

**安心感#2**：子どもを遊ばせている

**寛容性#2**：子どもが声を出して遊んでいる

**期待感#4**：何かに人が群がっている

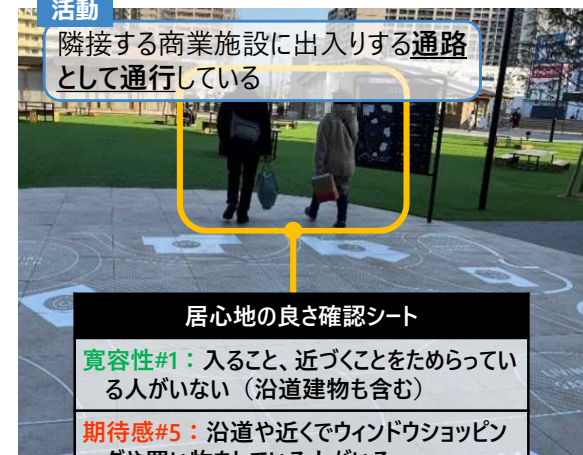
**活動**  
イベントスタッフが遊んでいる子どもを見守っている



**居心地の良さ確認シート**

**安心感#3**：地域の人や警備員など「人の目による防犯」が行われている

**活動**  
隣接する商業施設に出入りする通路として通行している




**居心地の良さ確認シート**

**寛容性#1**：入ること、近づくことをためらっている人がいない（沿道建物も含む）

**期待感#5**：沿道や近くでウィンドウショッピングや買い物をしている人がいる

**活動**  
日向で座ってスマートフォンをいじっている



**居心地の良さ確認シート**

**安らぎ感#4**：座って読書をしたり、スマートフォン・タブレットを操作したりする人がいる

**安らぎ感#6**：日光を楽しむ、日陰で過ごす人がいる

**活動**  
ペットを連れてきて、写真撮影をしている

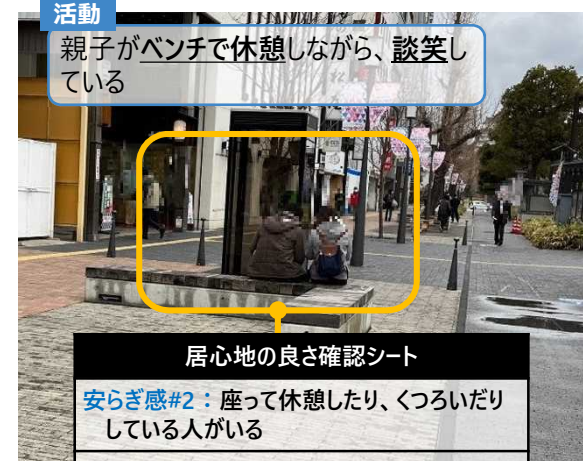


**居心地の良さ確認シート**

**寛容性#5**：ペットを連れてきている人がいる

**期待感#8**：写真を撮っている人がいる

**活動**  
親子がベンチで休憩しながら、談笑している



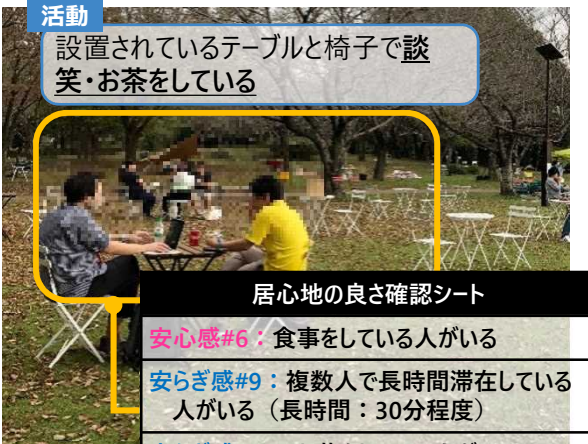
**居心地の良さ確認シート**

**安らぎ感#2**：座って休憩したり、くつろいでいる人がいる

**期待感#1**：笑いながら話している人がいる

## 居心地の良さ確認シート 2/4

**活動**  
設置されているテーブルと椅子で談笑・お茶をしている



**居心地の良さ確認シート**

安心感#6：食事をしている人がいる
安らぎ感#9：複数人で長時間滞在している人がいる（長時間：30分程度）
安らぎ感#10：お茶をしている人がいる
期待感#2：複数人で飲食をしている（ピクニックを含む）

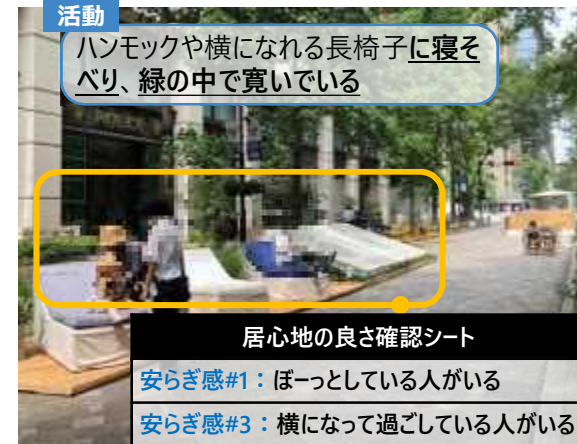
**活動**  
ピアノとステージが設置されており、ピアノを演奏している



**居心地の良さ確認シート**

期待感#6：パフォーマンスをしている
期待感#9：音楽にのっている人がいる

**活動**  
ハンモックや横になれる長椅子に寝そべり、緑の中で寛いでいる



**居心地の良さ確認シート**

安らぎ感#1：ぼーっとしている人がいる
安らぎ感#3：横になって過ごしている人がいる
安らぎ感#5：花壇や緑などのそばでたたずむ人、眺める人がいる

**活動**  
数名でヨガ教室の体験を楽しんでいる



**居心地の良さ確認シート**

安らぎ感#12：ヨガや体操・ストレッチをしている人がいる
------------------------------

**活動**  
大人数で広場でモルックをプレイしている



**居心地の良さ確認シート**

期待感#7：子どもや大人が興奮して遊んでいる
------------------------

**活動**  
出展者がテントにて飲食物を販売しており、参加者が買い物をしている



**居心地の良さ確認シート**

期待感#12：食べ歩きをしている人がいる
----------------------

## 居心地の良さ確認シート 3/4

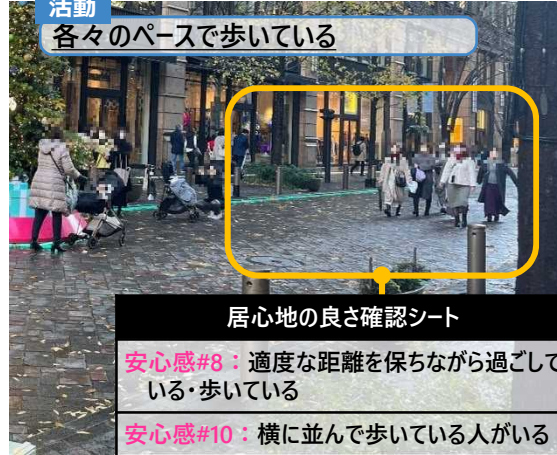
**活動**  
路上でお絵描きを楽しむ子供を家族が見守っている



居心地の良さ確認シート

- 安心感#2：子どもを遊ばせている
- 期待感#10：絵を描いている人がいる

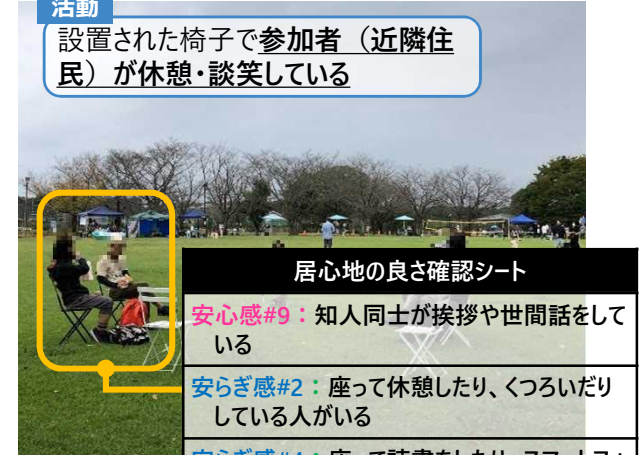
**活動**  
各々のペースで歩いている



居心地の良さ確認シート

- 安心感#8：適度な距離を保ちながら過ごしている・歩いている
- 安心感#10：横に並んで歩いている人がいる
- 寛容性#11：周囲より遅いペースで歩いている人がいる

**活動**  
設置された椅子で参加者（近隣住民）が休憩・談笑している



居心地の良さ確認シート

- 安心感#9：知人同士が挨拶や世間話をしている
- 安らぎ感#2：座って休憩したり、くつろいでいたりしている人がいる
- 安らぎ感#4：座って読書をしたり、スマートフォン・タブレットを操作したりする人がいる

**活動**  
グループの趣味のスケートボードを楽しんでいる（3グループ利用）



居心地の良さ確認シート

- 寛容性#4：何かの練習をしている人がいる

**活動**  
スーツや私服等、様々な服装の人がいる



居心地の良さ確認シート

- 寛容性#8：多様な服装の人がいる

**活動**  
ワーカーが出勤前にPC作業をしている

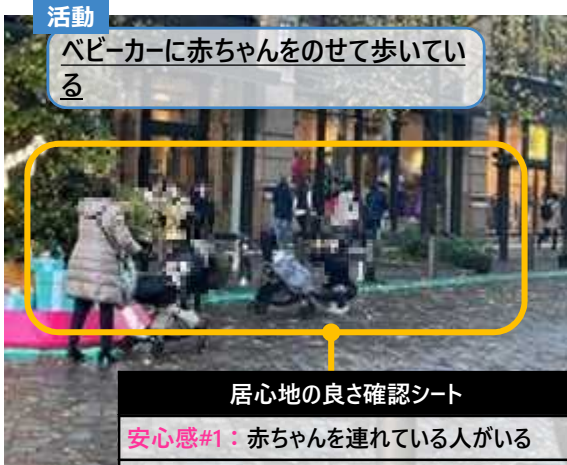


居心地の良さ確認シート

- 寛容性#9：電話、Web会議をしている人がいる

## 居心地の良さ確認シート 4/4

**活動**  
ベビーカーに赤ちゃんをのせて歩いている

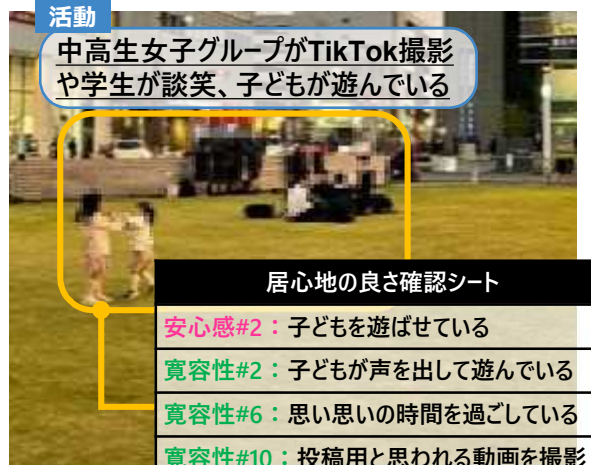


**居心地の良さ確認シート**

**安心感#1**：赤ちゃんを連れている人がいる

**安心感#4**：足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が難なく移動・滞在している

**活動**  
中高生女子グループがTikTok撮影や学生が談笑、子どもが遊んでいる



**居心地の良さ確認シート**

**安心感#2**：子どもを遊ばせている

**寛容性#2**：子どもが声を出して遊んでいる

**寛容性#6**：思い思いの時間を過ごしている

**寛容性#10**：投稿用と思われる動画を撮影している人がいる

**期待感#1**：笑いながら話している人がいる

**活動**  
ワーカーが疲れてうたた寝をしている



**居心地の良さ確認シート**

**寛容性#3**：うたた寝をしている人がいる

**活動**  
近隣住民のペットの散歩をしている



**居心地の良さ確認シート**

**寛容性#5**：ペットを連れている人がいる

**安らぎ感#8**：散歩をしている人がいる

**活動**  
ウェディング撮影をしている



**居心地の良さ確認シート**

**寛容性#7**：想定外の活動が見られる（ウェディング撮影をしている等）

**期待感#8**：写真を撮っている人がいる

**活動**  
子どもたちがダンスを披露し、保護者・観客が写真を撮っている



**居心地の良さ確認シート**

**期待感#4**：何かに人が群がっている

**期待感#6**：パフォーマンスをしている

# 【参考資料1】 計測イメージ

空間の状態確認シートAでは、沿道建物（1階から見える地下の店舗や滞在空間を含む）や土地（スペース）の状況について確認します。以下に、実際に見られた沿道建物や土地の状況を例示しました。空間の状態確認シートAの参考としてご活用ください。

## 空間の状態確認シートA（沿道建物・土地状況）



空間の状態確認シートA

建物：利用：飲食店：利用者の様子見やすい：屋外の滞留空間あり



空間の状態確認シートA

建物：利用：その他：利用者の様子見にくい



空間の状態確認シートA

建物：利用：販売店：利用者の様子見やすい：屋外の滞留空間なし



空間の状態確認シートA

土地：利用：キッチンカーなどイベントを実施



空間の状態確認シートA

土地：利用：実施なし



空間の状態確認シートA

土地：未利用

出所：都市計画基本問題小委員会中間とりまとめ

空間の状態確認シートBでは、対象地にある機能や設えの整備状況等について確認します。  
以下に、実際に見られた機能や設えを例示しました。空間の状態確認シートBの参考としてご活用ください。

## 空間の状態確認シートB（機能・設え状況） 1/2

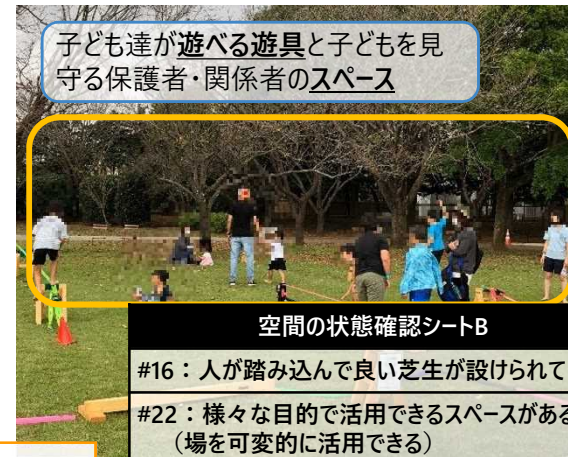


#17：建物外設置物（椅子・販売物等）の設置可能範囲が明確にされている



#6：案内所・掲示版・デジタルサイネージ等がある

十分・不足の判定例：  
休日の人が多い時間帯にも滞在者が不自由なく利用できる量・率の機能が存在する



- #16：人が踏み込んで良い芝生が設けられている
- #22：様々な目的で活用できるスペースがある（場を可変的に活用できる）
- #23：体操や運動に利用可能な場がある
- #24：イベントを開催できるスペースがある



- #15：子ども用の遊具がある
- #24：イベントを開催できるスペースがある



- #11：イスやテーブルなどの設備に可変性がある
- #12：座れる場がある
- #13：自由に使えるテーブルがある



#40：水の流れが設けられている（一般的な排水設備等は対象外）



## 空間の状態確認シートB（機能・設え状況） 2/2



# 【参考資料 2】 まちの状態の可視化に関連した文献・ツール等

## ■ 主な文献

#	文献名	著者・発行団体	概要
1	ストリートデザインガイドライン	国土交通省	ストリートデザインのポイントとなる考え方を、様々な例示とともに示している。
2	Cities for People	Jan Gehl	外でのアクティビティを、必要 (Necessary)、任意的 (Optional)、社会的 (Social) の3つに分類し評価している。
3	人間中心視点による公共空間のアクティビティ評価手法に関する研究	泉山 盛城ら	アクティビティ調査を行う事で客観的な観察による質的データの収集が可能になり、その重要性を提唱している。
4	ストリートデザイン・マネジメント:公共空間を活用する制度・組織・プロセス	出口 敦ら	公共空間を活用するための精度や素子区・プロセスについて多数の事例から解説している。
5	防犯的な視点から見たプレイスメイキング概念に関する考察	三友 奈々、渡 和由	調査を通して、公共空間における防犯と居心地の良さの両立を目的とした、公共空間に必要な具体的な場のコンポーネントを提示した。

## ■ 主なツール

#	文献名	著者・発行団体	概要
1	Sensuous City[官能都市]	LIFULL HOME'S総研	「都市における官能的な体験の実際をつかむ」ことを目的に、関係性と身体性という視点から都市の実相を可視化する調査。
2	Walkability Index	日建設計総合研究所	暮らしやすさの観点から徒歩圏内の施設充実度を定量的に評価する指標。
3	Liveable Well-Being City	一般社団法人スマートシティ・インスティテュート	政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」において、地域におけるWell-Beingを計測する指標として活用される指標。
4	Project for Public Space、The Place Diagram	NPO、「What is Placemaking」	公共スペースにおける4つの要素 (用途・活動、居心地の良い・イメージ、アクセス・つながり、社交性) から、魅力的で活気のある公共スペースを作るためのフレームワーク。
5	プレイス・ゲームガイド	UR都市機構	プレイスメイキングのプロセスの1つである対象とする公共空間を統一的な視点から評価し、課題を特定する「プレイス・ゲーム」のガイドブック。
6	Pedestrians First	国際交通開発政策研究所 (ITDP)	歩行者の安全性と利便性を最優先に考えた都市環境の整備を促進することを目的としたプログラム。
7	Walk Score	Redfin	物件周辺にある店舗や施設、公園や緑地、公共交通機関などへのアクセスのしやすさを総合的に評価する、物件の歩行利便性を評価する指標。

ツールの  
アウトプット  
イメージ  
(例)

センシユアス・シティ・ランキング	センシユアス度 スコア (調査対象100)	公共体に 接続 している地 域	匿名性 が高い	アクセスが 容易	機会が ある	食文化 が豊か	自然を 感じ	自然を 感じる 歩ける
1 文京区	608.0	93.1	78.2	83.9	78.9	62.9	68.6	86.1
2 大塚市北区	566.5	75.9	77.8	85.7	82.9	64.0	79.6	47.3
3 武蔵野市	550.4	63.5	63.1	76.8	65.5	64.0	81.2	66.6
4 目黒区	548.6	68.8	69.8	78.3	62.8	63.0	79.8	57.2
5 大塚市西区	530.1	62.1	80.5	65.8	75.4	61.6	72.3	59.1
6 台東区	525.9	78.1	72.4	69.2	78.1	55.8	76.3	43.8
7 大塚市中央区	525.4	62.8	78.2	76.7	73.2	68.7	67.1	45.4
8 世田谷区	515.0	65.9	61.7	65.4	73.9	77.3	53.2	66.4
9 品川区	508.7	68.4	70.3	59.4	66.5	58.4	72.4	53.8
10 港区	488.6	53.9	77.3	75.3	69.3	63.9	61.3	43.9
11 千代田区	485.6	73.8	78.4	63.9	73.7	61.8	58.8	35.5
12 豊田町	483.2							
13 横浜市保土ヶ谷区	479.8							

出所: #1 Sensuous City、  
LIFULL HOME'S総研



出所: #2 Walkability Index、  
日建設計総合研究所



出所: #3 Liveable Well-Being City、  
一般社団法人スマートシティ・インスティテュート

**本指標に関する問い合わせ先**

国土交通省 都市局 まちづくり推進課  
〒100-8918  
東京都千代田区霞が関2-1-3  
TEL： 03-5253-8111（内線32536）